



Governor's Monthly Letter

国際ロータリー 第2630地区
2020-2021年度 ガバナー 剣田 廣喜

ガバナー事務所

〒506-0011 岐阜県高山市本町1-2 飛騨信用組合 本町サテライト出張所 3階
TEL 0577-32-2630 FAX 0577-36-1488 URL <https://www.rid2630.jp/> E-mail 2021@rid2630.jp



JR東海のハイブリッド方式特急車両「HC85系」 ワイドビューひだ・南紀の後継車両として試運転中(高山本線 上枝～飛騨国府)

Contents

- 剣田ガバナーメッセージ
- 2020-21年度 クラブ会長挨拶「一年を振り返って」
- 2020-21年度 ガバナー補佐挨拶「一年を振り返って」
- 2020-21年度 委員会委員長挨拶「一年を振り返って」
- 活動事業報告
上野東RC 40周年／可児RC
- 第2630地区 会員数報告
- 第2630地区 会員動静報告
- ガバナー月信 一年を振り返って



June 2021 Vol.12

第2630地区のHPは
スマートフォンでも
ご覧いただけます





一年間、本当にありがとうございました。 心から感謝申し上げます。

2020-21年度
RI第2630地区ガバナー

劔田 廣喜 (高山中央RC)

皆さんこんにちは。拙い話しでしたが、皆さんに発信し、私の思いや月間に囚んだ色々な話を載せてまいりましたが、いよいよ最終号になりました。クラブ会長・幹事様をはじめとし地区会員の皆様方の温かいご支援とパストガバナー、諸先輩の皆様のご指導、そして地区チームの皆さん、地区スタッフの皆さん、事務局の皆さんのご協力でコロナ禍、何とかガバナー職を務める事ができましたことを心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。あつという間に過ぎ去った過去の思い出が、今私の頭の中を走馬灯の様に駆け巡っています。

2020年度～2021年度は、コロナで始まりコロナで終わったガバナー年度でした。

目下の状況では、思うようにロータリー活動や事業を展開できないなど様々な問題を抱え、一緒に学び成長し、そして奉仕することが非常に困難となっております。RIはzoom会議、ビデオメッセージ、ソーシャルメディア等のオンラインを通じてさまざまな方法でロータリーに参加し続ける事を推奨しています。第2630地区でも合同公式訪問・GTM・地区委員会・クラブ例会などWEB会議にチャレンジしてまいりました。すでに多くのクラブや地区が、テクノロジーを賢明に駆使し、それぞれの地域社会でリーダーシップを発揮する機会を見出しています。

コロナ禍で人類は多くの問題・課題を抱えたと思うのですが、その中でも特に「本当に必要なもの」と「そうでないもの」がはっきり分かってしまったことはとても大きいのではないかと思います。

ロータリーにおいて必要なものとは、奉仕の理念です。奉仕の理念を例会において研鑽し、事実上の発想の交換を通じて職業奉仕の理念を学び、その結果として自己改善と言う教育効果を得ることが出来ます。私達はこれをクラブ奉仕と呼んでいます。クラブ奉仕とは、固い純粹親睦で結ばれた会員同士が、お互いに役割分担しながらクラブの管理運営をすることです。そして、例会場を出て、それぞれの分野で奉仕活動の実践を行います。

職業奉仕とは企業経営の理念であり、分かち合いの精神を持って自分の利益を優先するのではなく、自らの職業を通じて社会に奉仕することによって、その見返りとして適正で継続的な利益が得られることを説いた考え方です。ここにロータリーの本質、変えてはならないものがあると思います。

現在、ロータリーの未来を定義するものは、革新性と柔軟性であり、時代に合わせ大きく変

化しようとしています。この方向性は、日本のロータリーが心棒してきたロータリーの伝統的な有り様基本的なルールを低下させるものです。しかし、ポール・ハリスが言った「世界は常に変化して行く……ロータリーの物語は幾度も書き換えられなければならない」と言う意味は、「ロータリーの奉仕の哲学を以て、日々変化する社会の要請に対応し、応えなければならない」と言う意味であります。

ロータリーの本質を忘れずに、ロータリーとは何か？ロータリークラブとは何か？ロータリアンとは何か？を真剣考えるにはこのコロナ禍は良い機会だと思います。コロナウイルス発生背景には、人類が自然を無視し、経済活動を進めてきたことによる生態系の破壊がある、又自然界の緊急事態宣言であるという声もあります。人間の社会が自然環境と密接に関わっていることを改めて認識する必要があるといえます。ポストコロナが人類に提示した課題は「生き方の改善」ではないでしょうか。「生き方の改善」によって、感染症対策だけでなく、気候変動問題に対して継続的にチャレンジすることでもあります。with/afterコロナ時代に向けて、新しい生活様式への移行を促進・実践することは、結果としてコロナ対策の先に気候変動の緩和にも繋がるのではないのでしょうか。

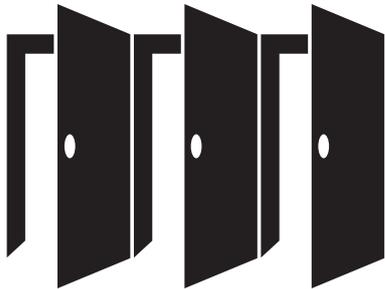
残念ながら、新型コロナウイルスとの戦いは長期化しそうで、私たちはこの「不確実」で「不安定」な状態から、そう簡単には抜け出せそうにありません。このような状況でも、ストレスをできるだけためこまずにロータリーの理念(他者に対する思いやり)を実践する為にも、自分や組織の中で確たる判断基準や行動原則を持ち、それらに基づいて行動し、試行と検証を繰り返していくことが重要であると思います。そしてその個人や組織の行動の積み重ねが、社会的にも大きな経験や財産となり、きっといつの日か、この状況を世界的に、社会的に終息させることを、私は信じます。

最後に、浦田ガバナーエレクトはすでにリアルとオンラインのベストミックスで素晴らしい地区運営を実践されていますが、コロナウイルスが終息して浦田ガバナー年度が輝かしい年度となることを念願しております。その意味で2020年度～2021年度は私で良かったと思っております。

何もできませんでしたが第2630地区ロータリアンの皆様のご支援ご協力に衷心より感謝を申し上げます、筆を置かせていただきます。

ありがとうございました。

一年間のロータリー 活動を振り返って



Rotary Opens Opportunities

ロータリーは機会の扉を開く



「一年をふりかえって」

桑名西ロータリークラブ会長
小川 浩司（桑名西RC）

新型コロナウイルス感染症は、各会員の立場や価値観によって、随分と捉え方が違います。会食のできない業種、会食をしても影響の少ない業種があります。職業柄、一切の接触ができない方がいる一方で、とにかく仲間の顔が見たいという方もいらっしゃる。僕自身、保育園や幼稚園の経営者・園長ですので、同居家族以外との会食は厳禁です。自分が保菌者になれば、何百というご家庭に迷惑をおかけしますので、職業奉仕に努めるならば、食事が無くても、会合への出席を控えたい業種。会長を引き受けておきながら、申し訳ないのですが、何度か退会を考えました。「全力でサポートするから、安心して会長を務めるように」との言葉に支えられ、幹事をはじめ、会員の皆様のお力を借りながら、クラブ運営をさせて頂いております。優しい先輩方に助けられ、桑名西ロータリークラブの会員で良かったと、実感する一年でした。



自粛の中で

桑名ロータリークラブ会長
水谷 新平（桑名RC）

2年越しのコロナ禍の中、どのように安心安全な例会運営を行っていくかということが最大の課題でした。しかしながら緊急事態宣言や蔓延防止措置などが矢継ぎ早に発出され例会自体の休会が余儀なくされてしまいました。現在まで行うことが出来た例会も片手で数えるばかりの回数で講師の先生方もお呼びできない、いわゆる緊急簡易スタイルとなり、例会本来の目的とは異なった“例会を開くための例会”になってしまった感は否めません。

この様な大変厳しい中でもクラブとして例会場の変更や年間開催数の見直しなど、先を見据えた改革に着手でき私なりに満足しています。喫緊の課題である会員増強に関しましては時勢を捉えてあまり活動できず高齢会員の退会など、少し寂しい結果になりました。

ただ、次年度には入会希望の方も数名伺っており、ポストコロナにむけ体制の立て直しをお願いし幹事はじめ役員一同の皆様のご理解ご協力と全会員の皆様の温かい友情に敬意を表し一年間の感謝と致します。



見えない敵に振り回されて

桑名中央ロータリークラブ会長
伊藤 嘉恭（桑名中央RC）

ご存知のようにコロナに始まりコロナに四苦八苦した1年でありました。

例会、事業も多くは中止を余儀なくなり残念な1年でしたが、支援活動では人の支援は出来ず支援金は継続しております。

クラブの基盤である会員数は現状維持を保っていますが、職業格差も生じ今後は退会者を含め会員増強には全会員で務めていく決意です。



一年をふりかえって

桑名北ロータリークラブ会長
清水 啓史（桑名北RC）

今期のクラブのテーマを「自己研鑽」みんなでめざそう真のロータリアンとしました。これは、会員増強が求められている昨今、新規会員を獲得するためには、まず、会員自身が会員になって良かったと思える必要があります。その中でもロータリーに参加して特に自分自身が成長できたことにメリットを感じられることが大切であると思ったからです。また、私達は常日頃から、ロータリアンとして尊敬されるような立ち居振る舞いができるよう心がけていかななくてははいけません。そこで、今年度は「マナー例会」というものを年4回計画しましたが、臨時休会の為に、残念ながら1度だけテーブルマナーが開催できたのみとなりました。

しかし、4月15日には桑員グループ水谷茂ガバナー補佐のもとで、剣田廣喜ガバナーをお迎えしてGTM並びに桑員グループ四クラブ合同例会のホストクラブをつとめ開催することが出来ました。

ご支援をいただきました皆様方に感謝を申し上げます。



『一年をふりかえって』

四日市北ロータリークラブ会長
林 鍾夏（四日市北RC）

新型コロナの影響で、例会やクラブ活動、奉仕活動が全然出来ていない状況の中で、会員同士の連帯感も少し薄れている気がします。会員の皆様には申し訳ない気持ちでいっぱいです。

人は活動する事で、やり甲斐や達成感、会員同士の連帯感が生まれます。クラブの現状維持は、維持ではなく、後退という事を強く感じました。コロナの今だから思うのですが、例会の重要性、日々の奉仕活動継続の重要性、会員同士の親睦の重要性を改めて感じる一年でした。

会員同士の結束の為にもですが、ネパールの子供達の識字率向上の為に、奉仕活動を準備しました。当クラブのネパール人会員の協力を得、国内で奉仕活動出来ない分、ネパールの子供達に、ガバン320個、学校にノートパソコン3台を寄贈しました。

様々な事情を持つ会員同士が、ロータリーに集まって、一つの活動目標を設定し、協力し合いながら進んで行く事は素晴らしいと思います。

これからも、コロナに負けずに、地域社会に存在感溢れる活動を企画して、一步一步進めて行きたいと思います。



「一年を振り返って」

四日市ロータリークラブ会長
市川 克美（四日市RC）

今年度を振り返ってみますと、昨年4月はコロナ感染の第一波の中、「会長エレクト研修セミナー」など全て中止となり、前代未聞のオンライン研修で会長職の資格を得て、漸く新年度のスタートを切ることができました。

年度初めの8月からはコロナ感染の第二波、今年年初は第三波、4月からは第四波とまさしくコロナに翻弄された一年で、「コロナの中休み」の間に例会など最低限のプログラムを何とか消化するといった状況であり、年度当初に表明した会長方針などは全て大言壮語となってしまいました。中でも当クラブが最も重視する親睦活動である秋と春の「家族会」を中止にさせて戴いたことなどは痛恨の極みで誠に残念でなりません。

次年度は新型コロナウイルスの感染が収束し、ロータリークラブの日常が一日でも早く戻って活動できることを願うばかりです。



1年を振り返って

四日市西ロータリークラブ会長
大矢知 直登（四日市西RC）

創立50周年という節目を迎えた本年度、コロナというパンデミック下で、ロータリーの運営はどのように成すべきかを考えさせられ、実行した1年間でありました。

具体的には、Zoomを使ったハイブリット例会の実現、フェイスブックとLineを活用した例会出席人数の確認、会員相互の交流と情報伝達を行いました。

またHPを刷新してクラブの情報を外部に発信し、例会情報等をタイミング良く提供、そしてHP上での会員アンケートを収集する体制が整いました。

メディアへの情報公開にも活動の重きにおいて、事業の紹介を新聞やケーブルTVに取り上げていただいた事は、クラブのメディア戦略としても大きな進歩でありました。

1年を振り返り、コロナで実行できなかった事業の数々には、後ろ髪を引かれる思いですが、メンバーの増強にも成功し、この素晴らしい機会を与えていただいた会員の皆様から感謝をいたします、ありがとうございました。



一年をふりかえって

四日市南ロータリークラブ会長
清水 常雄（四日市南RC）

今年度は、まさにコロナに始まりコロナに終わったという一年でした。数か月の休会、時短例会、又、計画していた諸活動も中止せざるを得ませんでした。今まで経験のないことばかりの連続でした。このような時期の判断、決断は、一見消極的なものに見えます。希望に満ちた判断、決断ではありません。会長としては、あまり面白いものではありません。しかし、コロナ禍、高齢者の多いロータリークラブにおいて一番重要な判断基準は、「会員の命を守る」という事です。例えそれがロータリークラブの前例を無視することになっても、日本国民としての基準で判断、決断しなければならぬと考えました。

これからしばらくコロナと付き合っていかなければなりません、出来るだけ早く通常通りのロータリー活動が出来ることを祈るばかりです。



「一年をふりかえって」

鈴鹿ロータリークラブ会長
清水 慎一郎（鈴鹿RC）

7月に新年度が始まるが、8月は一部休会となる。なんとか例会を開催できないか模索するなかで、8月20日会員宛に通知をすることになった。「9月、10月の例会の開催に関して、現実の例会開催と、ネット動画視聴の両方を取り入れた『ハイブリッド形式』を試みます。当日、例会に欠席された場合には、後日広報委員会が作成するネット配信の動画を視聴し、感想文を提出して頂くことにより、出席とさせていただきます。また、例会の会場における現金の受け渡しを避ける観点から、ニコボックスは、メッセージとともに金額を記入し、後日銀行振込にてお支払い下さい。」結局、例会はこの形式で、その後も続けることとなった。

2020年9月30日水曜日、「Withコロナ時代におけるロータリー運動とは」をテーマにして、剣田廣喜ガバナーにオンラインにてご参加願ひ、今後の活動の指針についてお話し頂いた。

1月21日から2月24日までコロナ第三波により休会。こうして振り返ってみると、何が出来るのかと問われ続けた一年であった。



一年をふりかえって

四日市東ロータリークラブ会長
和田山 久司（四日市東RC）

2630地区の皆さん一年間ありがとうございました。本年度は皆さん同じだと思いますが、コロナで始まり残念ながらコロナで終わる一年になりそうです。

まず年度を始めるべき時期がちょうどコロナの始まりで、PETS及び地区協議会が次々に延期になりました。このあたりで平素の勉強不足を補い勉強し、会長方針を固め、次年度理事役員会に臨もうとしている時期にこのような状態でした。そして地区の方のご努力により、連休前にユーチューブによる代替セミナーが開催され、ようやく一通りの勉強をさせてもらいました。特に地区の基調講演はロータリークラブの歴史と変遷、そして現状の問題点等がとても新鮮に思えました。

年度が始まり各事業、例会を中止または延期にせざるを得ず、会員の皆様及びプログラム委員長をはじめとする各委員長にも大変な苦労をおかけしますが、なんとか皆様のご協力で乗り切っていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。



一年間を振り返って

鈴鹿西ロータリークラブ会長
森 豊（鈴鹿西RC）

私のテーマは未来のために種まきを、進めようロータリーでした。新型コロナウイルスの第2波、第3波、第4波と一年間で大きな波があり、その度に例会を臨時休会とし会員の命を第一に考えれば適切な決断だったと思います。世界は苦難に直面しています。

そんな中でも感染が収まっている時には夜間例会にて高級ワインと一般のワインの飲み比べ、近江方面へバスにて家族親睦例会、創立36周年記念例会など親睦については安全の確保、3蜜を守りながら楽しく開催出来た事は大変嬉しく思っています。

ロータリー財団地区補助金を活用して知的障害を持つ子供たちの自立支援のための環境づくりとして社会福祉法人 和順会（鈴鹿和順学園）様へご希望の遊具を組立、指導を行い贈呈しました。何はともあれバスト会長はじめ会員の皆様には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。



「一年を振り返って」

鈴鹿ベイロータリークラブ会長
中野 強 (鈴鹿ベイRC)

会長に任命して頂き初めは「どうしよう・こんな私に務まるのか」と初めはとても不安で仕方がありませんでした。去年の7月の例会で初めて「新会長の挨拶」をさせて頂き、本当に緊張して話した内容を覚えていない程でした。話す内容など、どうしようと考えているとある先輩会員の方から「自分の身近にあった事や自分の話したい事」でいいですよ。と助言を受け気持ちが軽くなりました。

コロナ渦の中思うように事業計画も進められず、また例会の休止あり会長職として至らぬ事ばかりで、中村幹事様には本当にいろいろ助けていただき感謝いたします。

ベイロータリークラブの会員の皆様には叱咤激励をいただき不完全燃焼でしたが1年を終わる事が出来ました。会員の皆様本当にありがとうございました。



一年を振り返って

鈴鹿シティロータリークラブ会長
恩田 幹夫 (鈴鹿シティRC)

今年度は「明るく・楽しく・和気満々と」を合言葉に、笑顔で集い合うクラブ運営を目指して参りました。

しかしながら長引くコロナの影響により例会の短縮や中止、また親睦例会及び移動例会の中止等を余儀なくされました。そんな限られた範囲の中でしたが各担当例会をしっかりと実施できたこと、また出席率も高かったことに各委員長はじめ会員の皆さんに感謝しています。

また今年度唯一の全体事業として6月に鈴鹿和順学園様へ花壇の寄贈を実施させていただきました(いただく予定です)。これは学園の関係者さまと私たちにとって大変有意義な事業であったと(あると)思います。

結びに、昨年度に続き今年度もコロナ禍に振りまわされる一年になりました。幸いにも当クラブの会員からはコロナ陽性者は出ていません。この先も誰一人コロナにかかることなく、そして一日も早いコロナ収束と安心な日常が戻ることを願っています。



「一年を振り返って」

亀山ロータリークラブ会長
田中 博之 (亀山RC)

昨年の7月、コロナ禍のなか会長に就任し不安のままクラブ活動を行ってきました。当初の予想通り年間のクラブ活動の大半が中止・縮小となってしまいました。

当クラブは、小規模クラブで通常年においても限られた活動しかできない中、今期は例会の開催もままならず本当に悔しい思いをしたものでした。そのようななか、今年度は米山奨学生のサポートクラブとして奨学生を受け入れたことで、ひと月に一度は奨学生を迎え入れての活動をと目標を持つことができ、会員も楽しみにすることができたようです。

コロナ対策を工夫したなかで、奨学生とインターアクトクラブの交流の場を新たに設けて、各会員も孫のような若者たちと楽しいひと時を過ごせました。今後・来期に向けてもコロナの状況がどのように変化していくかわかりませんが、今年、職場でもクラブでも経験した様に、在宅・webなど職場の在り方、クラブ活動の在り方も大きく変化していくと思われまふ。小規模クラブの私たちもこの時代の流れを汲み取って、芯の通ったクラブ活動を続けていきたいと思ひます。

一年間ありがとうございました。



一年を振り返って

津ロータリークラブ会長
竹林 憲明 (津RC)

あと少いで会長職も終わりとなります。この一年を振り返ると新型コロナウイルスの影響でいつもとは全く違うロータリークラブ活動となりました。

PETSや地区研修協議会は中止になり、例会運営も不確定ななか会長としての一年が始まりました。私は津ロータリークラブが強くなるためにどうしたらいいかを考え会長方針を考えました。昨年は地区大会の成功という大きな経験を全会員のご尽力で得ることができました。会員間の連携の賜物だと思います。まさに「ワンチーム」であります。

数年にわたる準備の疲れと次の目標に向かって英気を養うために今年のテーマを「慰労と癒し」としました。しかし例会の中止や親睦旅行の中止など感染防止策が優先されるため考えていた活動はできませんでした。

半面、新型コロナ禍での不自由な運営に会員の皆様協力していただき、全会員の結束で助けられた一年でした。一年間本当にありがとうございました。



「一年をふりかえって」

上野ロータリークラブ会長
榊原 成人（上野RC）

感染拡大と影響を覚悟はしていましたが、事業や例会を直前に変更・中止する事が多く会員の皆様や関係者の方々に大変ご迷惑をお掛けして申し訳なく思います。それでもロータリー歴が長く高齢の会員の方々から「例会を楽しみにしているから出来ると判断したら躊躇なく開催してくれ」と、励ましの言葉を頂きました。

昨年度から卓話時間の確保のため例会前に到着順に食事を終え、卓話の前に懇談・休憩時間を持つスタイルが今の例会には適応する事となりました。

飲食の関係から創立記念例会は中止となり、対外交流となる事業も全て中止し、クラブホームページの改定を行い、状況が許せば家族親睦旅行を実施予定です。

多難な時期ではありますが、最後まで例会や事業が実施出来るよう試行錯誤しながら「過度に恐れず油断せず」努力していきます。



「一年を振り返って」

津南ロータリークラブ会長
何川 高（津南RC）

昨年7月の会長就任以来、クラブ運営は荒波の連続でした。コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年8月、9月、今年の1月、2月と4か月間例会中止のやむなきに至りました。それに加えて、事務所を置いているホテル都シティ津が、昨年7月に突然休業を宣告し、半年を経て今年2月一杯で廃業するに至りました。

これに伴い、例会場探しを余儀なくされ、ようやくホテルプラザ洞津に落ち着きました。そして、事務所の方も今年4月になって、2度目の引っ越しをすることになり、津センターパレスの3階に落ち着くことができました。この間クラブの会員の皆様、津市役所など各方面のご支援ご協力を頂き感謝しております。

さて、クラブ運営においては、例年行ってきた恒例の行事は次々と中止になり、外来卓話も、福本ガバナー補佐、中村地区会員増強委員長、平井地区ロータリー財団部門委員長の他に、昨年10月に伊勢鉄道代表取締役の岩崎栄様をお迎えしたのみに終わりました。

しかしながら今年は、当クラブの創立55周年にあたります。5月には55周年記念例会を行い、記念誌の発行も予定しております。このように波乱の1年でしたが、当初に掲げた「礼を重んじ、和を尊ぶクラブを目指す」というテーマは何とか実現できたものと思います。改めて、会員各位のご協力に深く感謝申し上げます。



この1年を振り返って

名張ロータリークラブ会長
浅津 英明（名張RC）

残すところ2ヶ月ではありますが、これまでの当クラブの活動状況を報告いたします。R28/31～9/1の東京パラリンピック観戦と友好クラブ池袋西ロータリーとの合同例会、R29/26の中勢伊賀グループのGTM(旧IM)、新年祝賀例会、中勢伊賀グループポッチャ大会、いずれもコロナ禍のため中止に追い込まれました。これらすべての行事の企画・準備は万端整い、あとは実施のみのところまでいっていましたが、やむなく中止となりました。誠に残念としか言いようがありません。

実施まで漕ぎ着けた事業は、昨年11月、「名張子ども食堂」へ食事用トレイを寄贈させていただき、当クラブ会員の皆さんに「子ども食堂」の全国的拡がりを知ってもらい、今年3月、社会福祉法人「名張育成会」への支援事業では、ズームを使った遠隔「交流会」を催し、親睦を深め、併せて「音響機器」を寄贈いたしました。本事業ではR財団からの補助金をいただき、先方からも大変喜ばれたことと感じております。

対外的な事業は中止に追い込まれた分、当クラブでは多くの会員の卓話をお願いし、内向きではありますが、内容の濃い例会に心掛けました。発足当初のロータリークラブはこのようなクラブではなかったかと思う今日この頃です。



1年を振り返って

津北ロータリークラブ会長
高臣 文祥（津北RC）

新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波の影響で8月20日から9月末までと1月21日から3月4日まで2度例会は休会となりました。例会開催中は短縮例会で座席もスクール形式という形で行いました。

一番残念だったのは、会員の懇親を深める機会がほとんどもてなかったことです。特に新入会員の皆さんにとっては、クラブに馴染んで頂くためにはとても残念なことでした。そんななか第2波と第3波の合間に、津4クラブ合同例会はかないませんでした。9月23日に釧田ガバナーをお迎えしての歓迎会と翌24日に会長幹事懇談会が開催できました。当クラブの取り組みとしては11月5日にIDMとRI情報をまとめた懇話会を開催できたことは良かったと思います。

また、当クラブが昨年創立50周年を迎えた際に三重大学小児科への支援事業を行いました。今年もその継続としてキッズソファを小児科病棟にお届けしました。



一年間を振り返って

上野東ロータリークラブ会長
鈴木 孝治 (上野東RC)

本年度はコロナ禍の中でのスタートとなり、どう言うビジョンで一年間のクラブの方向性を決めるかで悩みました。本年度理事会で決めた事は出来るだけのコロナウイルス感染対策を実行して、例会を休まないと言う事でした。実際には7回の休会が有りましたが、致し方ないと思っております。なぜ例会開催に拘ったかと言うと、計画通りに事業などが行えない中で、出来る事の第一は原点に帰って「会員間の親睦」だと思ったからです。例会で直接顔を合わせて、安否確認、情報収集等で元気になって帰っていただきたいと言う思いで、やってまいりました。

本年度、上野東RCは40周年の節目でしたが、メインの記念事業は1年間の延期となってしまいましたが、私自身、出来る事は精一杯やらせて頂いたつもりです。会員の皆様の一年間のご協力に感謝申し上げます。



一年をふりかえって

名張中央ロータリークラブ会長
玉置 英治 (名張中央RC)

当クラブは昨年創立25周年を迎えることができました。残念ながら記念祝賀会はコロナ禍の中自粛をさせていただきます。

また、これを機に5名の会員の方が退会され20名という少数人数でのスタートになりました。ただ退会者についてそれぞれの方は、ロータリークラブの活動に価値観が無くなったわけではなく、健康を不安視されたりコロナ禍で開業医として活動に従事できない等の理由で残念ながら退会式を行い、温かく見送ることができました。

次々と事業及び例会が中止または延期になる中、夏の納涼例会、秋の親睦会は行い、創立以来会員家族との深い係りは続けることができました。

また、今後5年間について若い40代、50代の会員のめまぐるしい成長もあり役員体制について目途がつかまりました。

また、本年1月には恒例の事業でもある地元高校生とのコラボで老人施設入居者への慰問と手づくり巾着の贈呈も実施できました。これについてはロータリーの友3月号にも掲載されました。

今後については、増強はもちろん地域に根ざした質の高い活動で名張中央ロータリークラブの名を広めたいと思っています。



今年度の会長として

久居ロータリークラブ会長
下里 義治 (久居RC)

会長就任は、新型コロナウイルス第一波の非常事態宣言解除後に新年度スタートし第4波のまん延防止法と非常事態宣言解除(はたして解除出来るのか?)に会長を終了。

いったい何が出来たかと今思うと例会は、臨時休会が続く例会を開催しても時間短縮で行い会員同士の私語も極力控え、予定していた外来卓話の講師の方からもお断りの連絡がほとんどでした。

奉仕計画書でのロータリー活動も何もできない大変悔しい思いがあります。会長としていったい何をしたら良いのか悩み、会員全員で考えた結果いち早くWEBなどのデジタル環境を整え会員同士の連絡また、会社の規約等により例会への出席が出来ない会員の為にZOOMでの例会出席を認めることなど今まで、ロータリーの基本だった例会出席が変わる事に戸惑いながらも今までにない挑戦をして新しい生活様式の時代に順応する事が必要だと思った一年でした。



一年をふりかえって

松阪ロータリークラブ会長
刀根 唯誌 (松阪RC)

新型コロナウイルスの感染防止により会員の健康と感染防止を最優先に例会時間短縮と状況により特別休会措置とさせて戴きました、例会開催時には毎回多くの会員の方々にご参加を頂いたことは、ロータリーの崇高な思いを持たれている会員の方々に感謝、感謝でした。

例会において職業奉仕の推進として入会の新しい会員の方々に毎月事業所紹介の卓話をして頂き、会員交流に繋げることが出来ました。地域貢献の一環として永年継続している植樹を今年も多くの会員の参加を頂き開催させて頂きました。

本年当クラブ設立70年を迎える年で最終例会にて、お祝会の例会開催をさせていただきます。

一年を通してお世話になった、幹事はじめ全ての会員の方々に厚く御礼と感謝申し上げます。

一日も早い感染収束を祈願致します。



一年間を振り返って

松阪東ロータリークラブ会長
竹内 秀樹（松阪東RC）

今年度は一年間コロナウイルスに振り回されてしまいました。松阪市で1日5人以上（後に5人出た翌日との平均で5人以上に変更）のコロナ感染者が出たら休会と基準を決めて運営をしてきました。

ロータリーの基本である例会をあまり休会することなく開催できたのは幸いでした。昼食はテイクアウトでしたが、例会出席率も高い日が多かったように思います。ただし、残念ながら懇親会はほぼできずに終わってしまいました。奉仕活動は松阪市への非接触型体温計の寄贈、例年は交流例会をおこなっている児童福祉施設 聖の家様との交流ができなかった為、今年は図書カードの寄贈をおこないました。振り返れば会員のコロナウイルスでの退会者もなく、少ないですが女性会員が2名入会してくれました。会員の皆様に支えられて一年を乗り切ることができ感謝しております。

一日も早くコロナウイルスが収束し、ロータリークラブの活動が普通にできることをお祈り致します。



「一年をふりかえって」

尾鷲ロータリークラブ会長
杉山 誠（尾鷲RC）

スタートにあたっての一年間のCLP活動の目標は①会員増強(本年度は1名増強)②地域奉仕活動③例会の充実でした。まず会員増強については、何人かの候補者に話をしましたが、結果的には増強する事ができませんでした。ただ継続中の候補者もいますので次期会長と連携していきたいと思えます。

次に地域奉仕活動についてはコロナ禍の中、なかなか思うような活動はできませんでしたが、地区補助金活用奉仕活動での尾鷲中学校吹奏楽部への支援で生徒さん達に喜んで頂いた事は良い思い出となりました。さらに、例会の充実についてはコロナの関係で計7回の休会したものの、それ以外は毎週、感染拡大防止に注意を払い、会員の皆さんにもご協力いただき、開催する事ができました。内容については、まだまだ十分ではなかったと思いますが充実した内容になるよう心掛けてきたつもりです。あっという間の一年でしたが、私にとってはとても貴重な一年でした。ありがとうございました。



一年を振り返って

熊野ロータリークラブ会長
片岡 博也（熊野RC）

今から二年前不安と希望が混在する中、会長エレクトとして今年度の準備に取り組んでいました。それから半年後いよいよあと半年で会長年度が来るというときに新型コロナウイルス感染者が確認され、さまざまな研修等が中止となりPETS、地区研修・協議会等においてもYouTubeでの配信となりました。この一年たくさんの研修・大会等に参加して一人でも多くの人と出会い、自己研鑽できることを楽しみにしていた一人でした。しかしこの一年間は違う意味で自己研鑽できたようにも思えます。どのように感染対策をしながら例会を開催していくのか、自クラブが地域にどのような奉仕ができるのかなどいろんな意味で自クラブをみんなと一緒に見つめなおすことができた一年だったと思います。

当初の目標とはかなり違う形にはなりましたが一年間ありがとうございました。これからも自クラブがより良いクラブになっていけるように頑張っていきたいと思えます。



2020年～2021年度を振り返って

松阪山桜ロータリークラブ会長
北出 誠（松阪山桜RC）

2020年～2021年度が間もなく終了します。

振り返って見れば「あっ」という間の1年だったように感じます。

昨年より発生した、新型コロナウイルス感染症が未だに終息の目途が立たず、この1年間はこの感染症に振り回され通してました。

当初計画した事業や行事もほとんど実施できないまま年度の終了を迎えようとしています。例会においても、実施するかしないかで毎週気を揉んで幹事とふたりで悩み通した1年でした。

このような困難の中での1年でしたが、考え方を変えれば、普通では経験できないような状況で会長ができ、より会員の絆も深まったのかなと思えることもできました。

普通の日常が、いかに貴重で有難い事だとわかった1年でもありました。



一年を振り返って

伊勢ロータリークラブ会長
宇治土公 貞尚 (伊勢RC)

当クラブの70周年にあたり、また「インターアクト年次大会」のスポンサークラブ並びに「GTM」のホストクラブということで、心して新年度を迎えました。しかし年次大会とGTMについては残念ながら中止となり、70周年記念式典・祝賀会については規模縮小の上、記念例会に振り替えて会員だけの開催となりました。

本年度は日本にロータリークラブが誕生してから100周年ということで、スポンサークラブである東京RCの設立や関東大震災からの復興等のエピソードを紹介するなど、我がクラブだけでなく、日本のロータリーの歴史を再認識していただける機会を設けました。

相次ぐ休会など新型コロナウイルス感染症に翻弄される一年でしたが、田畑知幹事の支えと会員の皆様の御協力により、無事務めを終えられますことに心より感謝申し上げます。



「1年を振り返って」

伊勢南ロータリークラブ会長
河村 幸久 (伊勢南RC)

伊勢南クラブでは、昨年の3月～5月までの3ヶ月間休会となりました。次年度の準備が思うように進まず、7月からどのように運営をしていけばいいのか少し不安に思いました。しかし6月末に剣田ガバナー様よりのお電話で『会員の安心・安全を第一に考えて下さい。』というお言葉を頂き、少し気持ちが楽になったことを覚えております。

コロナ禍のこの1年間、計画していた事業は全て中止となり、また地区の事業も中止または不参加となりました。会長として何が出来たのか、疑問に思っております。しかし幹事さんと『出来ることを精一杯取り組みましょう。』と話をし、時には難しい決断もありましたが、長期間の休会もなく例会を無事開催することが出来たことに安堵しております。会長として至らぬ点も多々あったかとは思いますが、理事・会員の皆様のご協力があったからこそ、務められたと感謝しております。本当にありがとうございました。



一年を振り返って

鳥羽ロータリークラブ会長
中村 和寛 (鳥羽RC)

コロナ感染拡大が納まらない中、鳥羽ロータリー57期、また私も57歳という年齢…何かの節目?ご縁?だと思ひ会長職を受けさせていただきました。数々の事業を計画したものの、開催されるか否か全く不透明の中、中止になる事業もありましたが、鳥羽ロータリー会員の暖かい友情のもと乗り切ることができました。

100%例会達成、盛大な家族納涼例会、友好クラブ美濃加茂RCの例会参加(親睦ゴルフ)、財団補助金事業では「鳥羽高校、鳥羽学支援プロジェクト」の実践、及びコロナによる生活困窮者や鳥羽の子ども達の為の「フードバンク」を実施しました。また、街に元気をキャッチフレーズに「鳥羽城イルミネーション」の点灯、そして、コロナ感染拡大防止の啓発、終息を願い、市民の森公園鳥羽のシンボル「ガリバー遊具に「マスク装着」等々、何か街の為に出来ることはないか?と思ひ1年間突っ走りました。

このような大変な状況下においても退会者が出なかったことに安堵しております。

スローガン「うまくやるより全力でやる!」鳥羽の明日に向かって!

会員の皆様に感謝致します。1年間ありがとうございました。



「一年を振り返って」

志摩ロータリークラブ会長
橋爪 淳子 (志摩RC)

今年度志摩RCのテーマを「思いやりの心、おもてなしの心を地域に」とし、会長として会員の協力を得て地域に大いに貢献したいと心を躍らせておりました。が、残念なことに、この1年もまた昨年度に続きコロナ禍の影響を多大に受け、休会・短縮例会も実施した中で、会員同士の交流を失わないよう役員が度々の意見交換をし、様々な文書を発送したり、手指消毒スプレー等を配布したりと工夫をいたしました。

コロナ禍でクラブの活動もいろいろ制限もされましたが、障がい者の方々へクリスマスプレゼントを贈り、市民向けに「STOPコロナ差別」のステッカーを配布いたしました。また、バリタマンRCとの共同事業「バリへの水環境支援(貯水槽・手洗い場の設置)」が今順調に進んでおります。このようにコロナ禍にありながらも多彩に事業を実施できたのも一重に会員皆様の奉仕の心にあると思います。会長として充実した一年を送れたことに感謝申し上げます。



「一年を振り返って」

伊勢中央ロータリークラブ会長
濱千代 裕章 (伊勢中央RC)

緊張と責任を感じながら第31代会長を仰せつかることとなり、昨年7月3日に第1回例会をスタートさせていただきました。

我々は、クラブメンバーと知り合う機会を与えられることにより、そこから得られる経験や知識が、これからの人生に大きくプラスとなることと考え、また時代が刻々と進化していく中、これら絶え間ない変化を受け入れながらも、従来よりある伝統も重視し、我々自身も発展していきたいとの思いで本年度のスローガンを「不易流行の精神で!」とさせていただきます。しかしながら、昨年度から続くコロナ禍により、度々例会の変更を余儀なくされました。特に大切な親睦活動の例会を三度も中止にしなければならなかったことは、残念という他ありません。今後はこの経験を糧とし、どのような状況下でもロータリーとして出来ることを精一杯行っていくことが大切ではないかと思えます。

次年度に期待しつつ、お礼の言葉にかえさせていただきます。

一年間、本当に有り難うございました。



「一年を振り返って」

岐阜ロータリークラブ会長
所 洋士 (岐阜RC)

今期はとにかく、コロナ対策を万全にして、出来る限り例会を継続するという事に力を入れてまいりました。始まる前は、オリンピックの年度ということで、毎年8月の初旬に開催していた納涼例会を、最近開催されていなかったクリスマス会に変更して、ご家族も呼んで楽しく過ごすという案に進んでいましたが、結局クリスマス会も中止、新年互礼会、節分例会についても、緊急事態宣言中ということで中止にさせていただきました。振り返ってみれば毎週の例会以外のほとんどの事業を開催することができませんでした。迷うことの多かった日々でしたが、そんな中で常に「四つのテスト」を頭においてロータリアンとしての行動が出来ているかの確認は、いつも以上にやれてきたのではないかと感じています。

この一年を支えていただいた役員、委員長の皆さんには、事業の準備をしては中止、準備をしては中止と、振り回してきてしまったことをお詫びすると共に心からの感謝を申し上げたいと思えます。



「一年を振り返って」

伊勢度会ロータリークラブ会長
田ヶ原 博史 (伊勢度会RC)

2020年～2021年度の奉仕活動は、新型コロナウイルス関係で、毎週から月3回に少なくしていました。さらに2020年12月、2021年1月2月がすべて中止になりました。会長として何をすべきか、何を話すべきかわからなくなる有様でした。

そんな中、幹事はじめ役員理事、クラブ員の皆さんの絶大なご協力、無事人気を終えられ本当に感謝しています。奉仕・親睦とも満足なことができないまま終わってしまうのは少し残念な気持ちですが、「三重とわか国体・三重とわか大会」にクラブとしていささかの協力が出来たのはうれしいことでした。

実はこの前の国体で高校生だった私は、軟式テニスの出場メンバーに選ばれました。今回の国体では開会に向けて側面から協力ができ喜んでます。新世代のことも達のため立派な国体が出来ればいいなと願っています。



「一年を振り返って」

岐阜西ロータリークラブ会長
篠田 正男 (岐阜西RC)

今期を振り返り一言。コロナで始まりコロナで終わる1年でした。多くの会長が不完全燃焼で終わった年だと思います。そこで会長就任にあたり大事にしてきたことを紹介します。

今から80年前、デール・カーネギー著「人を動かす」が出版されました。ロータリー会員の皆さんは読まれた方も多く、特に【人を動かす三原則】は、会社やロータリーでも活用された方が多いと思います。私は、第2章の【人に好かれる6原則】を大事にしてきました。

- ① 誠実な関心を寄せる
- ② 笑顔で接する
- ③ 名前を覚える
- ④ 聞き手にまわる
- ⑤ 相手の関心を見抜いて話題にする
- ⑥ 心から褒める です。

先輩諸氏を見本に相手を優先してコミュニケーションを取り、自分を信用し、自分のために進んで働き、大変なときに自分を助けてくれる仲間を見つけました。1年にわたり、好意と友情で見守ってくれました会員一同に感謝申し上げます。



一年をふりかえって

岐阜長良川ロータリークラブ会長
辻 寛 (岐阜長良川RC)

今期岐阜長良川RCは第56期を迎えましたが、新型コロナウイルス感染症の中、会員の安全・安心を考えたの例会運営となりましたが、1月第2例会から2月末まで休会を余儀なくされました。

2020年3月の会長エレクト研修セミナーはYouTubeで行なわれ、GTMもオンラインで行い、初めての試みで戸惑いがありました。その中でも、継続的な事業の岐山高校への奨学金の支援と乳幼児ホームまりあへの支援、創立以来続けていますボーイスカウトへの支援は行う事が出来ました。

会員相互の親睦をはかることの出来る夜間例会が2回のみ開催になったことは大変残念に思います。会員維持増強は、クラブの重要な課題です。会員維持増強プログラムの努力で上期1名、下期1名の入会がありました。3名の退会があり、前年度マイナス1名となり、増強の難しさを感じております。

次年度も引き続き会員維持増強に努められる事と思っております。一年間無事にクラブ運営が出来たことに感謝しております。



この1年を振り返って

岐阜中ロータリークラブ会長
三宅 裕樹 (岐阜中RC)

我がクラブの歴史の中で、最も運営に苦労したのが今期だったかも知れません。「密を避けろ」という号令の下、如何にして運営をすべきか頭を抱えた会長も多かったのでは無いでしょうか。

当クラブは、昨年度よりメンバー相互の連絡にLINEを利用しておりました。今期は情報伝達及び共有の力強いツールとして機能してくれました。例会が無い場合でも、画像も含めた多くの情報は、メンバー相互の距離を詰めるのに十分な活躍してくれました。

期せずして今年の経験は今後のクラブ運営に大きな気付きを与えてくれたとも言えます。ともすれば「前年踏襲」が繰り返されてきたクラブ運営に新しい試みを入れざるを得ない状況というのは、平時では経験出来ません。今後暫くは同様の状況が続く訳ですので、今後の会長は新しい切り口でクラブ運営を考える必要に迫られます。

しかし私にとっては「ピンチはチャンス」この状況を逆手に取って、新しいクラブ運営に挑戦できた苦しくも楽しい1年であったと振り返っています。



「一年を振り返って」

岐阜北ロータリークラブ会長
前田 吉彦 (岐阜北RC)

会長任期を振り返り思い浮かぶ言葉は「感謝」です。

ロータリー歴11年の53歳で会長職をさせて頂きました。至らない事が多い状況をクラブメンバーの皆さまに盛り立てて頂いたおかげで何とか任期を終えることが出来ました。就任当初の重点目標について満足できる成果もありますが、私の力不足とコロナ禍の休会とが相まって前進途中の状況ともあります。今年度当クラブから輩出した永瀬AGのGTM開催を非接触開催方針の下に地区で初めてZOOMを利用して行いました。不安の中、多数のメンバーの活躍で無事開催できたことも良い思い出です。

3年前からの「40周年を40名で迎えましょう」のスローガンは来期7月から2名増加し達成出来たことでホッとしています。メンバーのご協力の下に準備万端で次年度40周年へ無事にバトンを渡せたのは、多くのアドバイスや応援の言葉によるものと感謝致しております。貴重な1年間をありがとうございました。



一年を振り返って

岐阜南ロータリークラブ会長
鈴木 敏昭 (岐阜南RC)

新型コロナウイルスに真っ最中の中のスタートとなり、副会長、会長エレクト、徐々に気持ちも高まり、色々な構想も湧いてきて、今期・次期のクラブアッセンブリーを行うとしても出来ず、例会も休会となり、思うように進まず毎週・毎月がイライラしていました。

とりあえず次期アッセンブリーがなんとか行われ、テーマ・クラブターゲットとしまして「フレンド&ファミリー The ロータリー」にしました。

私もロータリーに入会して素晴らしい友達・友人がたくさん増え、ロータリーを通じて多くの人達と知り合いになりました。会長になり10ヶ月になろうとしています。例会・各種行事もイベントも中々出来ず、気持ちを盛り上げるためにビデオレターも6回位やってみましたが、やはり皆さんの顔を見ながらお話しするのが一番ですね。あと2ヶ月なんとか無事に行事が進んで、新型コロナウイルスも終わってくれるのを願っています。



1年を振り返って

岐阜東ロータリークラブ会長
林 則之 (岐阜東RC)

今年度のクラブテーマは「おもしろい岐阜東ロータリークラブ」とし、独自性のある活動を意識し、地域発展に繋げる魅力のあるクラブ(面白い!)とする方針としました。

前年度創立50周年記念事業の総括から「岐阜の魅力生かし方活動」を始動し、活動元年は、郷土の伝統芸能を支える「岐阜芸妓組合」様に対して行い、芸子さんの活動や歴史、しきたり、風情などの魅力を体験(卓話3回・実演3回)。支援策として、郷土の伝統文化をより広く知って頂く場所に活用してもらいたく、150年以上続く老舗料亭「ぎふ水琴亭」へ組立式舞台を寄付することが出来ました。(贈呈式は6月15日例会で実施予定)ウィズコロナの取組み、アフターコロナの新たな観光拠点など様々な伝統文化の活動発信の場へと繋がれば幸甚です。コロナ禍での例会中止(休会)が与儀なくされる中、会員の皆様のご協力で実現できました。改めてロータリアンの寛容さに感謝!一年間ありがとうございました。



一年を振り返って

岐阜加納ロータリークラブ会長
小野 優 (岐阜加納RC)

当クラブ第44期は、10ヶ月を経て、9月12月1月2月と約4ヶ月を新型コロナウイルス感染症による活動中止としました。幸いにも、今期のメイン事業である、中山道まちづくり交流センターへの「加納の歴史・文化継承プロジェクト」の推進事業(ロータリー財団地区補助金事業)は滞りなく完遂することができました。その他、「献血活動」「岐阜天文台において天文教室を開催」「岐阜県ジュニアゴルフトーナメント大会」の事業開催を実施できました。「ロータリー財団寄附」「米山財団寄附」も計画通り実行し、総括して対外事業はほぼ計画通り完了しました。

しかし残念な事に、会員親睦事業(観月例会・クリスマス忘年家族例会・新年互礼会・観桜遠征例会等)は中止しました。その中で、5名の新入会員を迎えることができ、嬉しく思います。



「1年を振り返って」

岐阜東南ロータリークラブ会長
毛利 敏忠 (岐阜東南RC)

今期はコロナに明け、コロナに暮れた長い様で、短い一年でした。

未熟な私を、理事、役員、会員の皆様に支えて頂き、なんとか終わろうとしています。

コロナ感染拡大により、8月・1月・2月の例会が全休になり、社会、青少年等、奉仕活動及び、今期3回予定しておりました、家族例会が中止・変更を余儀なくされた中でも、今期重要事項の一つの、地区補助金活用事業の羽鳥郡消防本部に、ドローン一式2機を寄贈し、寄贈式の後、ドローンを使っての水難救助訓練を体験することが出来ました。又、姉妹クラブ台湾佳里RC、創立35周年記念式典をコロナの為やむを得ず、出席を取り止め、記念旗付カブト、名入万年筆及び、祝メッセージ動画等を送らせて頂きました。色々と大変な一年となりましたが、その分、思い深い一年となりました。

最後になりますが、6月最終家族例会の企画をしておりますが、予定通り行えることを祈っております。会員の皆様にはご協力いただき、本当に有難う御座いました。



会長として

岐阜エトスロータリークラブ会長
北川 睿智 (岐阜エトスRC)

昨年度は幹事、引き続きクラブ会長。年度初に事務局交代・事務局移転。そして流行病。内向きに対応せねばならないことが山程ありました。一方で、クラブとしての対外活動はほとんどできませんでした。米山奨学生も半分、インターアクトも合唱部のためにほとんど休止状態。補助金事業も縮小。例年通りという顔面の言葉も使えず、流れに乗りきれないままに来ました。

ただし、スケールメリットがあり、昨年度末からオンラインを活用し、例会をほとんど休会することなく続けることができました。

また公共イメージ委員長と事務局・及び各会員の尽力で、週報はじめ各案内もFAXからメールのみになり、ペーパーレスに成功しました。RIが環境問題に正面から取り組んでいく方針を出されていましたが、すでにその方向に一歩進めたように思います。

流行病の中、来期に向けての下地作りに会員各位が前向きに取り組んで下さっていることに深く感謝を表したいと思います。



「1年を振り返って」

岐阜ロータリークラブ会長
三島 隆 (岐阜RC)

未曾有のコロナ禍の中、一年を通して一部の飲食を伴う親睦例会を除き、ほとんどの例会をハイブリッド、あるいはリモートのみでも行うことができました。今年度はIM (GTM)の担当でそれをズームとYoutubeのライブ配信で行いました。初めての試みでしたが成功裏に終わったのも岐阜Bグループの皆様のご理解ご協力によってと感謝しています。貴重な経験となりました。

また地区補助金事業「ハチドリの一滴：紙芝居の読み聞かせ」は、会場を屋外に変更するなど十分なコロナ対策のもと予定通り行うことができました。これは年度をまたいだ思いのこもった事業でした。

SDGSにも繋がるとして岐阜市長様のご参加、テレビ取材、各新聞にも取り上げられ、またロータリーの友にも投稿しました。十分な広報になったと自負しています。まだまだコロナが続く中、ロータリーのこれからの在り方を危惧するとともに、新しい姿を模索しているところです。



一年を振り返って

大垣西ロータリークラブ会長
日比 利雄 (大垣西RC)

今期は誰も経験したことのないコロナ禍でのスタートとなりました。

何もかも自粛という雰囲気が漂う中、どこまでやっていいのか、やっつけたいけどいけないことは何なのかを問いつけながらの出発です。

例会においても何とか開催できるよう皆さんの知恵をお借りして対策を講じ、継続してまいりましたが残念ながら昨年12月の中旬から2月まで緊急事態宣言に基づき例会を含め活動を休止いたしました。

ロータリークラブの運営にあたり留意している点は二つあります。

一つ目は、このような環境であっても退会者を出さないようにすることです。

高齢の会員さんもおられます。安心して出席いただけるよう配慮した例会会場、例会運営に努めています。

二つ目は、いかなる場合でも「ロータリーメンバーは社会の範であれ」という気概です。

この2つを判断基準にして運営してまいりました。



「一年を振り返って」

大垣ロータリークラブ会長
竹中 裕紀 (大垣RC)

今期は大垣ロータリークラブが設立されて70年の節目の年に当たり、記念事業や記念式典で大いに盛り上げたかったのですが、コロナ禍で制限の多い活動となりました。

思い起こしますと10年前の60周年の時には東日本大震災に見舞われました。ロータリアンとして義援金を送ったり、被災者の気持ちに寄り添って派手な活動の自粛をしたりしました。しかし今回のコロナ禍は世界中の人たち、自分たち全員が被災者です。リモートワークなど日常も価値観も大きく変わってしまいました。

こう言う時に、ロータリーの存在とは何か、又何をすべきかを真剣に考えさせられます。

今リアルでのコミュニケーションやスキンシップが如何に重要であったかを痛感しています。新型コロナウイルスはこの人間の本性を利用して蔓延してきました。何とか打ち勝って昔の常態に戻したいと思っています。



一年をふりかえって

本巣ロータリークラブ会長
鷺見 芳男 (本巣RC)

昨年春先頃から国内外においてコロナ渦ウイルス感染拡大により、経済の低迷悪化が続いており先行きが不透明であるなかではありますが、当クラブは、ピンチをチャンスと捉える方向で考え、今ここで会員の増強に大きく力を注ぎ増員目標を基に進めてまいりました。

まずは若手会員入会に目を向ける為、夜間例会を月に一度行う計画をたてた事で、若手の方の入会に理解を得ることが出来ました事は大きな自信に繋げることが出来ました。また職業分類においても検討し会員業種以外の職業増員に力を注いでまいりましたが、急速、例会を休会又は予定活動を中止せざる得ない状況になり、その状況化にあっても、特に会員増強委員は密に連絡を取り合い、推薦者を募り会員増強に専念してまいりました。その結果今現在では4名が入会し、今期後も更に4名が入会して頂ける様な状況であります。

会員増強を基に、奉仕の心を高め【クラブ・社会・国際・青少年】奉仕に繋げて行きたいと思っています。



1年を振り返って

羽島ロータリークラブ会長
野中 学 (羽島RC)

先ず、会長として1年を終える事が出来るのは、優秀な幹事と事務局や協力的な会員の皆様のお陰だと、改めてこの場をお借りして感謝の意を表します。

今期はスタートよりコロナ感染症問題が発生しており、例会は行えましたが、8月の納涼例会に始まり、9月の9RC合同例会・GTMはホストクラブとして会員全員で準備をして参りましたが、これも中止となり、12月の年忘れ家族例会も新年互例会までも中止と、第3波の影響で例会までも休会にせざる得ない状況となり、殆どの年間行事を行う事が出来ませんでした。会員の皆さんと打ち合わせをし準備をしていく中で沢山の気付きを頂いたので、次年度からは羽島RCの中心メンバーとなって盛り上げて行きたいと、改めて強く思う事が出来ました。

未だコロナ感染症問題は、変異ウイルスの出現でどうなっていくのかは見当が尽きませんが、終息後は今までのうっ憤を次年度へ注いで行きたいと思います。皆様、1年間未熟な私を支えて頂いて、本当に有難う御座いました。



一年を振り返って

大垣中ロータリークラブ会長
田中 勝治 (大垣中RC)

第38期 2020～2021年の会長を仰せつかりました田中 勝治です。この一年はコロナ禍に始まりコロナ禍に終わりそうな感じです。このような事例は、前期の後半にあったことを除いて、我が大垣中ロータリーが始まって以来のことではないかと思えます。そんな中、会長としてすべき優先順位は以下の通りとしました。

1. 会員およびご家族の中からコロナ感染者を出さない。
 2. 例会は出来る限りの配慮のもと開催する。
 3. コロナ禍の中会員相互の情報交換の場を作る。
- 1に関しては今のところ、あと2ヶ月を残し、会員およびご家族のコロナ感染者は出ていません。
- 2に関しては、Zoomでも参加できるようにし、リアルの場合においても、スクール形式のテーブル配置と食事は弁当にしました。
- 3に関しては、コロナ禍の中、今季18名の新入会員が入会し、喜ばしい結果ではありますが、国際ロータリーにおいて新入会員の52%の会員が3年以内に退会するというデータがありますので、私の会長職が終わっても、3年後には新入会員18名の会員存続率が100%になるよう、努力していくことは私の責務であると自覚しています。そのため、魅力あるロータリークラブとして継続していただけるよう、Facebook上に大垣中ロータリークラブのグループページを作成し、会員相互の情報交換ができるようにしました。(https://www.facebook.com/groups/1119796471864416/?notif_id=1619270513883516¬if_t=groups_member_joined&ref=notif) あと2ヶ月の間にオンライン、オフラインを通じて会員相互の情報交換ができるように頑張りたいと思います。



一年をふりかえって

不破ロータリークラブ会長
米山 幸夫 (不破RC)

今期は、当初より新型コロナの影響で行事計画通りに進まず、例会も予定通り出来ない日が多くありました。私共クラブの青少年健全育成の為の活動も、学校からの中止要請が相次ぎ残念でした。夏休みの読書感想文、科学作品、社会科作品に対する表彰や、9カ年皆出席者表彰などは、賞状と楯を贈りましたが、メイン行事である中学生による「英語スピーチコンテスト」は毎年郡内の4中学校から、約20名の生徒による、わが町の自慢・観光の紹介などの英語スピーチの大会ですがそれも出来ませんでした。

そんな状況なので、国も推進している教育のデジタル化による教育環境整備の為に今期は各校へ教育委員会を通じて寄付金を贈ることに致しました。ICT活用に役立つと喜んで頂きました。

これからはコロナに関係なく、オンライン化が進むのでしょうか、それでも各クラブの皆様と直接顔を合わせて話ができるほうが楽しいと思います。



1年を振り返って

大垣センチュリーロータリークラブ会長
木村 順一 (大垣センチュリーRC)

正しく「やりにくい1年」でした。その原因はコロナなのですが、年度の始まりはウィズコロナという言葉がよく聞かれ、私も「上手く付き合いながら事業の実施を」と考えていました。しかし、始めてみれば事業のほとんどが開催できず、中止を繰り返すことが当たり前になってきました。感染防止といっても限度があるわけで、参加メンバーに頼らざるを得ないことには何かしらのもどかしさを感じ、不安なままに開催を見送るといったことが多かったわけです。

国の緊急事態宣言はもとより、県の宣言にも従いながら、隙間を縫うように例会を開催したのですが、会員が集っての開催は4月を終える段階で20回しかありませんでした。近隣のクラブに比べれば多いのかもしれませんが、不完全燃焼の観は否めません。何より、不安を抱えながら出発しようとしている次年度には、手本を示すことが出来ず残念です。



1年を振り返って

岐阜淡墨ロータリークラブ会長
清水 浩一（岐阜淡墨RC）

岐阜淡墨ロータリークラブ創立29年目の会長を務めさせていただきました清水浩一です。

今年度の会長テーマを「例会、親睦を大切に、時代に適応したクラブを目指そう!」としました。今まさに世界が新型コロナウイルス感染症によって考え方、生き方、価値観、仕事の仕方まで変わってきています。経済活動が委縮し、ロータリー活動も停滞しています。このような時代だからこそ我々ロータリアンは、時代に追いつくように革新性を持ち、時代に適応していくように柔軟性を持ち、将来のためにビジョンを持ってこれからのロータリー活動を時代に適応するように考えていかなければならないと思います。

しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、思ったようなロータリー活動はできませんでした。

私は、常に会員の安心安全を考えることが最優先と思い行動してきました。一日も早く通常の生活が訪れることを願っています。



一年を振り返って

多治見ロータリークラブ会長
加藤 芳晴（多治見RC）

新型コロナウイルス感染症が確認されてから早一年以上が経ちました。コロナに翻弄された今期の一年でした。

例会の半分は休会となり、家族会・忘年例会・新年例会も全て中止。これも定めと思いながら会長職を務めました。期初早々にクラブホームページを立ち上げ、連絡方法をメールとファックスの両建てとしました。

事業については、コロナ禍を縫うように開催出来ました。地区補助金を頂きました事業『まちにひかりのいろどり』プロジェクト『高校生との多治見駅周辺共同清掃』『多治見ふるさと仕事塾』の対外的な事業は全て行うことが出来ました。振り返れば、皆さんからの一言々に励まされ、勇気付けられました。一年間のご協力に感謝。お力添えに感謝。ご友情に感謝。影で支えて頂いた幹事、副会長、副幹事、役員の皆様へ感謝。一年間、本当にありがとうございました。



一年を振り返って

岐阜サンリバーロータリークラブ会長
片野 國太郎（岐阜サンリバーRC）

コロナ禍で始まった私の任期ももうすぐ終わろうとしています。どうやら2度目の会長もコロナ禍で終わると思います。就任直後はコロナ禍もやや治まったかに見えたので、納涼例会もコロナに気を配りながら開催しました。幸いにして我々のクラブは少数クラブですので、密になるという事はございませんでした。今までは全ての行事に「家族」もっとうとして参りましたが、今年一年間は会員のみの参加ということでお願い致しました。クリスマス家族例会も大変寂しく感じられましたが、姉妹クラブの鹿児島東RCにも11月訪問して親睦を深められたことは良かったと思います。ただ、先生の反対で海津明誠高校のインターアクトクラブとの共同環境保全啓発活動と、台北城中RCの記念式典に参加する事が出来なかったのが心残りで大変残念です。

コロナ禍が終息し、心置きなく活動出来る日々が早く来ること心から願ってやみません。1月2月の緊急事態宣言時を除けばまずまずの一年間だったと思います。



「一年を振り返って」

中津川ロータリークラブ会長
長野 和夫（中津川RC）

ロータリークラブ会長任期もあとわずかとなってしまいました。当クラブも皆さんと同様に当初よりコロナウイルス感染症に振り回された1年でした。

第二派、第三派と続き、休会や事業の延期となり、当初のプログラムと予算の執行はコロナ禍の中では変更を余儀なくされています。当然に、飲食を伴う事業や会員奉仕事業、IDMの開催等は中止となりました。

その中で、コロナ感染症に影響を受けない事業ということで、ホスト開催であったIMは懇親会を中止し、グループ内の事業報告と研修リーダーによる研修発表というテーマのもとで冊子の発行を行い、グループ内の会員全員に配賦いたし好評を得ることができました。

また、クラブ地域内の消防本部に対し感染症患者対策用具として陽陰圧装置付搬送具を寄贈いたしました。現在、社会奉仕事業として地域市内の全中学生に対して、我が町の歴史と著名な人物を紹介する冊子の作成し寄贈する計画を進めています。



「一年をふりかえって」

瑞浪ロータリークラブ会長
有賀 和秋（瑞浪RC）

コロナ禍で前年度より引き継いだクラブ創立60周年と並行して、「職業奉仕と親睦」の原点に立ち、職業人としてお互いをリスペクトしつつ、友情の輪が広がり深まるクラブ運営をめざしました。感染症予防対策を徹底し、分散型食事を伴う例会を継続してきました。

10月8日には創立60周年記念式典を簡素化して会員のみで挙行、記念事業として60周年記念基金を設立し、集中豪雨で倒れた大湫神明神社の御神木「大湫大杉」の復興再生計画に協力しました。

3月には10年の歩みをまとめた記念誌も発行することができました。

緊急事態宣言発令による1～2月の休会后、3月から再び例会を再開、ZOOM中継とYOUTUBEによる動画配信も実施、「新たな日常」での例会運営のための環境を整備しました。趣味の会や家族会ができず残念でしたが、例会に参加し楽しそうに談笑する会員の姿に、「ロータリーの要は親睦であり例会である」ことを再認識した一年でした。ありがとうございました。



一年を振り返って

土岐ロータリークラブ会長
伊藤 智成（土岐RC）

第60代土岐ロータリークラブ会長を務める事に
なり不安いっぱい始まりました。

新型コロナウイルス感染拡大により、思うように例会も事業も
できませんでしたが、土岐市内こども園、保育園、幼稚園、小学校、中学校へパルスオキシメーターを
寄贈出来た事、事務所の移転を無事に出来た事はなによりでした。

しかし、例会・家族例会などの開催もままならず親睦出来ず、会員同士の繋がりも少なくなりとても残念です。

毎例会の挨拶で「皆さん、元気ですか？」から始め、会員、ご家族、関係者等の健康・感染等を確認し、皆さん元気で安心しておりました。

今期のテーマ「増やそうロータリアン 楽しもう友情の輪」を掲げて1年経ちましたが、会員の皆さんからの優しさと思いやりを頂きロータリアンとしてとても良い経験をさせて頂きました。これからも皆さんと協力してロータリー活動をしていきます。

1年間本当に有難うございました。



「一年を振り返って」

恵那ロータリークラブ会長
額額 雅治（恵那RC）

2020～2021年度会長をお受けして、今年度は朝から全国のコロナ感染者数のチェックから始まる毎日でした。会員から感染者を出さない、例会をクラスターにしない、会員各社を感染源にしないことを例会を開催するかどうかの判断の基準にしました。

2020年7月の年度開始早々から緊急事態宣言が発せられ未知の感染症への不安がピークでした。第1回目だけ例会を開催しその後2回ほど例会を休会にしました。休会にしたことで私が会長としての責任を果たせないことを痛感し、リモートで開催することにしました。例会場に会長・幹事・副幹事・事務局と運営委員会からも参加していただいて各自PCを持ち込み密を避けた距離を取り、会員には各自の事務所等から参加していただきました。思いのほか沢山の会員様に参加していただきリモート例会が開催できました。リモートに不慣れの会員には事務局で使い方をお知らせしました。例会時に発行するウイークリーには会員から『コロナがもたらした私の変化』という題材で毎週投稿をいただき、休会時にも発行を続けてまいりました。通常の例会を開催できる時もリモートによる参加も出席扱いとして継続しています。(会員の中には基礎疾患をお持ちで感染リスクの高い方も多数おられます)人類にはこの新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の後どんな変化が起こるのでしょうか?いままでも人と会い直接交流することで相互理解が深まり発展してきた人類の当たり前がPCを介したバーチャルな繋がりでお互いの相互理解が深まるでしょうか?私は人と人が直接会って肝胆相照らす人間らしい相互理解の機会はますます重要視されると思っています。ロータリークラブにおける例会はますますこのコロナ過後の世界に重要度を増すであろうと考えています。



1年を振り返って

多治見西ロータリークラブ会長
佐藤 正（多治見西RC）

新型コロナウイルスの感染に気を配りながらの一年となりました。当初から大きな活動計画は立ててはおりませんでしたが、限られた中で、社会奉仕活動として、多治見駅でのポリオ募金活動（ロータリーマスクの配布）、国際奉仕の活動として、姉妹提携クラブである台湾苗栗クラブとの共同事業で、多治見市と台湾苗栗市との児童による書画交換展示会の開催をし、いずれの活動も新聞等に取り上げていただきました。

今期はクラブ会員の減少により活動、運営が厳しくなり、課題となる会員増強や他クラブの問題点等、クラブの将来を真剣に議論することが出来ました。またこの時期会員、およびその家族に感染者がでなかった事が幸いでした。



一年を振り返って

中津川センターロータリークラブ会長
鷹見 幸久（中津川センターRC）

会長としての任期が終わろうとしており、ホッとしております。

大きな混乱もなく会務運営が出来たのは、役員の方や会員諸兄のご協力のおかげであり、感謝しております。コロナ問題でどれ程の事が出来るかという一抹の不安もあり、事実、親睦のための例会、会合などは中止となってしまいました。通常例会は出来る限り開催して来ました。その中で、独自の事業として「中津川デジタル産業企画展」「末松博士によるオンライン講演会」という斬新な事業を滞りなく終えられたのは一つの収穫であったと感じております。

昨年の6月に当該事業の方向性を定め、政府が奨めるデジタル化政策に先駆けて事業を計画、実行し、各方面から注目されました。また、オンライン講演会も中津川市の教育界に変革を促しました。「ロータリーを通して自分を高めよう」というテーマの中で、各自がこれらの活動を通して何かを感じとって、自己の生活や企業活動に活かして頂ければ幸いです。



一年を顧みて

美濃ロータリークラブ会長
村下 侑刑（美濃RC）

日本全体がコロナ禍による混乱の真直中で、至らずも会長としての船出となった訳ではありますが、通常行われる7月から新会長としてのスタートに向けて3月頃から始まるPETSや研修協議会等ができないばかりか、クラブ内における次期委員長会議、新旧合同役員会議等、重要な予定が全て中止となり、勿論例会も3月から8月迄は休会をせざるを得なかった訳で、会長バッチ交換や年度始めの総会も1ヶ月遅れの8月にずれ込む始末でしたが、そんな中だから出来る奉仕活動を考え一番困っている飲食業界の救いの一端となればとの意味でお弁当452名分を購入し、人命を救う為コロナウイルスと最前線で戦っている美濃市内医療関係の皆様全員に感謝の意味でお届けをしました。その事が新聞記事に載せられた事も大きな意味があったと思います。

又、今年は、クラブ創立65周年にあたる為5月連休中に実行する予定で取組んでいるところですが、コロナウイルスを避ける中最大の工夫を以って進めて参りたいと考えておりますが、なによりも一年間クラブの会員の皆様には、未熟な私を熱心で支えて頂き心から深く感謝を申し上げ御礼の言葉とさせていただきます。



「この1年を振り返って」

多治見リバーサイドロータリークラブ会長
澤田 哲郎（多治見リバーサイドRC）

何と言っても、今年度も新型コロナウイルスに振り回された1年でした。前年度3、4月が休会となり、5月から例会が再開しましたので、今期7月からは普通に例会が開催出来ると思いましたが、ところが8月にコロナにより2回の休会に追い込まれ、9月より再開でき順調に年を越すことができましたが、第3波に見舞われ1月から3月はじめまで7回の例会の休会を余儀なくされてしまいました。今年の最大のテーマである徹底した仲間意識の構築をするために、第3例会は全部夜間親睦例会を企画しましたが4回ほどお休みになってしまい、コロナ感染防止のためではありますが、全く無駄な時間を過ごしてしまいました。

今期も例会の休会が多く、予算が大幅に余ってしまいました。昨年度はコロナ対策で市中にマスク、消毒剤などが大変不足しておりましたので、多治見市役所に約65万円程寄付を行いました。今年度はメンバーの会社が飲食業をはじめ、洋菓子店、喫茶店、花や、酒造会社など多くの職種でコロナ不況で苦しんでおられましたので、市役所などへの寄付は止めて、メンバーの支援のために1名20,000円の予算で約80万円をコロナで苦しんでいるメンバーに支援に回しました。わずかではありますがロータリーの原理でもある仲間内の支援を行うことができました。コロナ過でないと出来ない経験をしました。これもコロナ関連だと思います。



「1年を振り返って」

各務原ロータリークラブ会長
小島 博彦（各務原RC）

新型コロナウイルス感染拡大の第2波が始まった時期を同じくして、ロータリーの2020-2021年度が幕を開けました。自分の会長年度が始まる頃には新型コロナウイルスの感染拡大も収束し、少しずつロータリー活動も再開できると考えていた私にとっては、正に闇から闇へと突き進むがごとく会長年度がスタートしました。

当クラブでは、通常の例会をできる限り行うという方針の下、可能な限り活動を継続してきましたが、コロナの影響により例会を中止せざるを得ない時もありました。そんな中でも、最も思い出に残っていることは、当クラブメンバーであるドクターによる「コロナについての卓話」を開催し、現場のドクターから見た新型コロナの現状をクラブメンバーで共有することができたことです。

会長年度を終えるこの時期に改めて、クラブを支えていただいたメンバー、事務局に感謝いたします。



「1年を振り返って」

関ロータリークラブ会長
木村 聡 (関RC)

第2630地区関ロータリークラブの会長を務めさせて頂いた木村聡と申します。

この一年は、新型コロナウイルス感染拡大に始まり、新型コロナウイルス感染拡大に終わったの一言に尽きます。安易に例会や事業を中止にしたいという想いで、各委員会には全ての事業をほぼ実施できる状態にまで仕上げたスタンスを頂きました。しかしどうしても安全が担保できない状況が発生し、多くの事業が中止に追い込まれてしまったことは、やむを得ないこととはいえ、大変申し訳なく思っています。その為このような状況下でもできる社会貢献活動として、関市内中学校への消毒用アルコールの寄贈、武儀医師会へのパルスオキシメーター等の寄贈を急遽実施致しました。また一年間を通じて、メンバー各位のモチベーション維持のため、ロータリーの本質的な活動意義について、繰り返し確認できるような例会を心掛けて行いました。皆様方のご健康とご多幸、新型コロナの鎮静化を祈念致します。



「一年をふりかえって」

関中央ロータリークラブ会長
川村 紳一 (関中央RC)

第44代会長としての船出は、新型コロナウイルス感染拡大の中はじまりました。テーマを「一人ひとりが輝く」～会員同士の絆を大切に～として、職業奉仕を中心に例会を充実するとともに、魅力ある奉仕活動を推進してクラブ運営を行うことを目標にしました。

今までの奉仕活動と違い、ソーシャルディスタンスを守り、マスク着用でひとり親家庭のこども支援事業としてデイキャンプを行いました。森林整備例会では、下草刈り、NPO法人子援隊の子どもたちと自然観察を行い、長良川流域連携クリーン作戦例会ではゴミ拾い、ひとり親家庭に新米5俵半を贈呈しました。そして関市制70周年記念にデジタルサイネージ付き体温計等を関市長に寄贈しました。いずれも関中央ロータリークラブを新聞に掲載して頂き、ロータリー活動を市民に知って頂く一助になったと思います。

この一年、新型コロナウイルス感染拡大の影響で半分位の事業が中止になり思うようなロータリー活動が出来ませんでした。誠に残念でなりません。



一年を振り返って

郡上八幡ロータリークラブ会長
岩尾 誠 (郡上八幡RC)

コロナ禍の中で始まった2020-2021年度でした。

例年ですと、開始2回目の例会にガバナー補佐訪問を受けご指導いただくところでしたが、新型コロナ感染防止の観点から今回は中止と決め、残念ながら行えませんでした。また1月には、第一例会終了後に岐阜県が非常事態宣言を発せられ、当クラブも3月7日まで休会としました。休会中は週一回以上の会長からの情報発信や理事会、会員のお祝いなどは実施し、会員のモチベーション維持にも努めました。

親睦活動が中止される中、郡上市の保育園、幼稚園等に対し手洗い啓発のグッズを送ることができ、新聞や広報誌等に掲載していただいて公共イメージアップになりました。通年行っている奉仕系の事業も、一部を除いて実施できましたので喜んでるところです。

第一目標の会員増強は、退会者2名(1名は名誉会員に登録)新入会員は6月時点で5名、純増3名となり、このコロナ禍の中でも達成できた事は会員の皆様のご協力のお陰と感謝いたしております。



1年を振り返って

郡上長良川ロータリークラブ会長
畑中 知昭 (郡上長良川IRC)

この1年は、どこのクラブにおいても新型コロナウイルスとの向き合い方に尽きることと思います。我々のクラブは「結」をクラブテーマとして、コロナ禍においても会員間の結びつきをどう高め、事業においては中止ではなく、どうしたら開催出来るかを模索する1年となりました。

9月にはZOOMを使ったGTMを開催し、年末には財団地区補助金事業の「くむんだー」を3保育園において開催することができました。緊急事態宣言中はZOOMにより仮例会を2か月間開催し、会員同士の結びつきを再確認することができました。反省事項としては、ZOOM参加者が半数にとどまり固定化されたため、全員参加できる方法を考える必要があることでした。



1年を振り返って

高山ロータリークラブ会長
河合 清文（高山RC）

他のクラブも同様でしょうが、まさに、新型コロナウイルスに振り回された1年でした。例年であれば、各種ロータリー活動は決められた予定に従い、遅滞、変更なく順調に進行しておりました。この事を私達は、当たり前のように、何の疑問も感じておりませんでした。しかし、今年度は、COVID-19の流行にあわせ、例会等のスケジュールの変更や中止を余儀なくされ、この事が、非常に頭を悩ました。

また、例会場の感染予防等、今まで考えもしなかった事柄への対応を迫られ、経験の無いなか、右往左往する日々でした。ロータリー活動のみならず、私生活でも数々の制限を受け、不自由を被りました。

しかし、これらの事を振り返ってみると、普通のありふれた日常がいかに幸せに満ちたものであったかを思い知らされた1年でした。COVID-19の1日も早い収束により、かつての様な、いつも通りのロータリーに戻れる事を祈っている毎日です。



一年をふり返って

高山西ロータリークラブ会長
塚 和信（高山西RC）

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、例会や事業の大幅な変更や中止とうい決断に迫られると共に、その対応に苦慮した1年でした。そんな中でも、感染対策を十分考慮したうえで創立55周年記念式典・記念事業・祝賀会、ロータリー財団地区補助金を活用した「ハンドボール講習体験会」、中学校での「出前講座」など大きな事業を行うことが出来ました。

また、会員数の減少と時代の変化へ対応するため、組織改革と継続事業の見直しを行いました。委員会の統廃合と委員会を統括する部門長を新設し組織を大きく変えたほか、53年間支援してきた飛騨高山高等学校インターアクトクラブは、部員数の減少により活動を行うことが厳しく、本年度で廃部をお願いし、来年度からインターアクトクラブ委員会を廃止を決定しました。その一方で、昨年度より新たにロータリー財団地区補助金を活用した事業が行われています。単年度の事業ですが会長・幹事の思い入れのある、時流に乗った事業を行っています。



1年を振り返って

下呂ロータリークラブ会長
森本 繁司（下呂RC）

今年度も新型コロナウイルスの影響を大きく受ける年度となりました。2021年1、2月は、岐阜県に緊急事態宣言が出され、例会も中止を余儀なくされました。

そのような中ではありましたが、60周年記念事業、青少年交換、桜の木の天狗巣病駆除作業、12ヵ年皆勤表彰、益田清風高校での模擬面接等、例年通りとはいきませんでした。コロナ禍なりのやり方で、事業を行うことができました。とりわけ我がクラブが伝統的に力を入れている青少年交換事業は、コロナの影響が大きく、アメリカへの派遣学生は中止となり、前年度より2名のインバウンドを受け入れておりましたが、何度も母国への帰国を確認しながらの留学生活となりました。幸い、2名とも1年の留学を全うし、元気にそれぞれの国へ帰国することができました。これもひとえにホストファミリー、学校関係者、クラブメンバーの皆様のお陰と感謝しております。

任期中の会員増は達成されませんが、次年度に向けての新規事業の取り組みも始まっています。

今後とも会員各位のご協力をお願い致します。1年間ありがとうございました。



1年をふりかえって

美濃加茂ロータリークラブ会長
小原 岳史（美濃加茂RC）

美濃加茂ロータリークラブの会長を拝命し大きなトラブルもなく無事任期を終えることができました。これはクラブ会員の皆様のおかげだと感謝しています。

今年度はコロナに始まりコロナに終わった事業年度でした。

前年度コロナの急速な拡大を受け、私たちのクラブも3月から5月に掛けて3カ月間例会が中止となりました。当時、コロナ過で先が見通せないなか再度例会が中止になったとき会員間の繋がりが保たなくなるのではないかと危機感を持ちました。

そこで幹事とSAA委員長が入念な準備をしてオンラインによる例会を開催することができ、人との繋がりの大切さを実感することができました。また、コロナのため外部の事業は中止になりましたが、研修リーグによる研修を実施してロータリーとじっくり向き合うことができた1年だったと思います。

このような状況の下で会長を勤めさせていただいたのは貴重な経験となりました。ありがとうございました。



「一年をふりかえって」

可児ロータリークラブ会長
可児 整 (可児RC)

コロナ禍、会長の任を受け活動計画が上手くこなして行けるか心配していました。

感染拡大で例会も密を避ける為、休会を余儀なくされ、「可児市ジュニアゴルフスクール」も8月から11月に延期。会場・プロゴルファー・スタッフ一同は感染予防に努め、参加人数にも配慮した形で開催。参加の子供達に喜んでもらえました。

残念なのは会員家族が集まり家族同士の親睦を図る「納涼例会」の中止。年間2回の家族例会で「クリスマス家族例会」はコロナの減少もあって開催が出来、家族皆様に楽しんで頂けました。

また可児市には一番高い山で地域の人々のハイキングコースになっております鳩吹山があります。

「鳩吹山クリーン作戦」と称して、奉仕プロジェクト委員会が登山口の草刈りや清掃活動を会員・家族で行いました。

今はコロナ対応で頑張っております医療従事者に、何か出来る事がないか可児医師会との話し合い、ワクチン接種時に着用する白衣を贈呈する事になりました。

会長として後、数ヶ月の任期ですがロータリー精神の「人に奉仕を」この言葉で全うしたいと思っております。



「一年を振り返って」

高山中央ロータリークラブ会長
村瀬 祐治 (高山中央RC)

一年を振り返ると、まずは無事に1年間を終えるにあたり、幹事・役員理事の皆様・メンバーの皆様に感謝申し上げます。

今期は、剣田廣喜ガバナー選出クラブとして、また創立30周年を迎えるクラブとして準備を進めて参りましたが、コロナ禍の中では対外的な奉仕事業、また、クラブ親睦会が開催することができませんでした。

例会内容としては、なるべくメンバーがお話しをして頂ける機会を多く作りクラブ内の情報交流を目指して開催して参りました。

創立30周年記念事業として、毎年不登校の児童生徒が増加しており、学校へ通学できない不登校の児童生徒に義務教育の学習の保障をするためにタブレットによる学習で基礎学を学ぶ機会を作り、将来へ進む道を広げていく事業として必要であると考え、高山市教育委員会「であい塾」へ通信機用付タブレットを11台寄付しました。(事業費100万円 地区補助金含む)

2020-21年度 ガバナー補佐挨拶



一年をふりかえって 桑員グループガバナー補佐 水谷 茂(桑名北RC)

ガバナー補佐拝命、剣田ガバナーの掲げる今年度のテーマを自分なりに消化し、各クラブに伝え実りある一年にとの思いのまま一年が過ぎようとしております。

そんな中、何とかGTMが出来た事、皆様にご感謝致します。今年度のGTMはコロナ感染防止を考え、会場は入場制限をして、同時にYouTube配信をして実行する事が出来ました。これも実行委員会のメンバー、クラブの仲間達、桑員各クラブの応援のおかげ、感謝です。

又、各クラブの会長、幹事、役員はこの一年クラブ運営に苦勞され、その中から学んだ事は多く有り将来のロータリー活動に大いに役立つ事と思えます。大きな危機を乗り越えた後は、大きなチャンスそして成長があります事確信しています。残り少ない期間、やり残した事少しでも消化して次年度につなげたいと思えます。一年間本当にありがとうございました。



「一年をふりかえって」 四日市グループガバナー補佐 佐野 幸男(四日市北RC)

2630地区四日市グループガバナー補佐の佐野でございます。この一年間はコロナによって何も出来なかった空しい時期でありました。ガバナー補佐の最大公約であるG・T・Mが中止となった事でありました。又、ガバナー公式訪問も剣田ガバナーの御支援を受け辛うじて実行出来たのが救いでもありました。今回も4都道府県に3回目の緊急事態宣言が発令され、社会情勢、経済情勢が又一段と厳しさを増してまいりました今日この頃であります。

この一年で生活様式が一変してまいりました。デジタル化の波が押し寄せ、テレワーク、オンライン、Zoomなど人と人との接触が出来なくなり、私の様な高齢者には大変な苦悩の連続であります。ロータリーとして例会は命であり、出会いが大好きであります。ロータリーは人生の中で一番の学ぶ場と思っております。ロータリーは様々な職業分野のリーダーの集まりであります。

様々な職種リーダーである人々との出会いの中で私達の人生にとり、大いなる知恵や、まさに大切に有益な情報やヒントを得る事ができるのではないのでしょうか。

ロータリーにおけるあらゆる機会においてロータリアンは人生を学び、自らを省みてこの難局を切り開いて行くようではありませんか。



一年を振り返って 鈴鹿・亀山グループガバナー補佐 伊藤 素近(鈴鹿シティRC)

昨年7月よりAGを務めさせていただき、あと少しで1年が過ぎようとしております。新型コロナウイルスと言う私たちが経験したことのない状況の中のAGと言う役割を自分の中での葛藤を繰り返す1年でした。昨年7月に予定をしていた5クラブ合同例会、ガバナー公式訪問例会及びGTMすべての行事が中止になり、またグループでの事業である出前講座、ロータリーDAYなどすべての活動が開催できなくなりました。グループ内各クラブを見ても緊急事態宣言中は例会の開催すらできず、今もお時間短縮例会や食事を持ち帰ったり、それぞれのクラブが試行錯誤しながら例会を続けています。ただそんな中、ガバナー年頭の思いでもありました会員の増強、退会防止につきましては各クラブのご協力もあり何とか期首の会員数を維持できました事は5クラブ皆様に改めて感謝いたします。最後になりますが、まだまだこのコロナ禍の状況はしばらく続くと思われます。今ロータリーは100年の歴史の中大きく変わろうとしています。私たちが想像もしない新しい手法もどんどん現れて来ると思います。そんなロータリーを皆様と一緒に楽しんで行きたいと思っております。一年間何もお役に立てなかったAGでしたが、5クラブ会員の皆様方に感謝するとともに、今後皆様方のご発展とご健康をお祈りして私の一年の回顧とさせていただきます。一年間ありがとうございました。



コロナ禍のガバナー補佐1年 中勢・伊賀グループガバナー補佐 福本 毅(名張RC)

昨年の7月からガバナー補佐を拝命し、各グループを訪問し御挨拶に訪問させていただき交流していましたが、思いもよらぬコロナ感染拡大ですべての行事が中止せざるを得ない事態となりました。中勢・伊賀グループもGTM開催については昨年11月から準備を進めて頂き、開催を楽しみにしていましたが、コロナ感染で中止をやむなく今日に至ってしまい、誠に残念な極みです。4月に入って少しずつ収まるかと思っておりましたが、拡大傾向にあり本来のロータリー活動ができない状況が続いております。

ロータリーは、職業奉仕が根幹であることを訴えています。これからもロータリアンと共に自己研鑽に励み、我職業のよりよく発展させていくことが、ロータリーの存在感たると思っております。



一年を振り返って 松阪・東紀州グループガバナー補佐 西 謙一(尾鷲RC)

2020年7月から松阪・東紀州地区のガバナー補佐の榮譽を賜りましたが、コロナ禍の影響により、地区の補佐として何も出来なかったことが非常に残念であり皆様に申し訳なく感じております。年始から騒がれ始めたコロナウイルスについては、釧田ガバナーも心を痛められ、今年のガバナー補佐に望むことを「クラブ支援」たった一つに絞っていただきました。各クラブが例会を縮小して一年、周りの生活環境はかなり変化をしたのではないかと感じています。その様な中、1、会員数の維持向上2、会員の質の向上3、活動の在り方について考えてまいりました。松阪三クラブと熊野クラブは人数も多く三密を避けられない苦しい立場になり、例会時間を短縮し、会員の楽しみである食事を持ち帰り弁当に代える工夫をしました。小人数の尾鷲クラブはラインでの活動報告を充実させ、会員の気持ちに寄り添う方法を駆使してきました。これらはすべて各クラブの中で考え実践してきたものです。ロータリーの運営については、「今後もこうあるべきだ。こうでなくてはならない」といったところを細かく見直ししていくべきではないだろうかと思っております。今年度のこれら対策を一時的でなく、これからの活動を、非接触を主体にする活動へと変化させることによるデメリットは何か。この問題を真正面でも受け止め、新しい体制にしていく事が大事であろうと思っております。今まで膝をすり合わせているような苦難に立ち向かっていきましたが、これからは遠く離れたところでも同じような状況を作り、考えや活動を共有していく事が出来るか、ロータリアン一人一人が思っていることを披露し、取り上げていく事が大切であろうと考えます。今までの素晴らしいロータリーの方針を、少し形を変え同じ効果を上げる術はないのでしょうか。何もできない一年間でしたが、本当にありがとうございました。この問題をこれからも考えながら今後の活動に動んで行こうと思っています。感謝です。



とんでもない1年を振り返って 伊勢・鳥羽・志摩グループガバナー補佐 河野 等(伊勢RC)

就任時に感じた不安が的中し、相次ぐ例会の休止によるガバナー公式訪問の中止、また11月末という遅い時期に計画したGTMも中止となり釧田ガバナーを始めとする地区の方々には大変ご迷惑をおかけしてしまいました。ただし当GRでは補佐訪問は2回実施し30分卓話も会長幹事懇談も、平年の2倍できたことになる。また例年より多い3つの補助金プロジェクトが申請され、かつ認可済みのプロジェクトを無事終了することができた。

この地区の女性メンバーは今9.7%と2年くらいで更に向上してきたが6クラブ中2クラブがゼロのままである。とにかく、この期間の入退会者をプラスにできたことは、各会員諸氏の心意気によるところが大きい。

また今年度から米山奨学生の孫さん(三重大学、韓国)が鳥羽クラブに来ていただいた。My ROTARYのアカウントを増やすことは相当努力したができなかった。これは大問題。地区委員会出向は各クラブから1名以上でまずまず。財団委員長が理事であることは67%のクラブで実現、財団への寄付目標クリアに期待。公共イメージ委員会は33%のクラブにのみ存在。大反省会の心配の種は尽きない。



『一年をふりかえって』 岐阜Aグループガバナー補佐 永瀬 章(岐阜北RC)

新型コロナウイルスの感染拡大する中、本来のガバナー補佐としての活動が出来ないまま、任期も2ヵ月余りとなりました。昨年7月の就任時には、この新しい感染症も年末までには終息しているだろうと想定しておりましたが、この原稿を書いている現在(4月中旬)は全国的に第4波の感染のピークを迎えようとしています。今後この波が大きな波とならず早くワクチンが行き渡ることを祈るばかりです。この一年間、AGとしては、年4回(ガバナー公式訪問・GTMを含む)クラブ訪問を計画しました。期初の訪問では各クラブの事業計画を詳しく説明を受けました。

8月22日(土)に計画いたしましたガバナー公式訪問・GTMは新型コロナウイルスの感染拡大が想定される中、「三密」を避ける意味でリアルでの開催が危ぶまれました。そこで、第2630地区では初めてと言われるリモート形式で開催いたしました。釧田ガバナーには、高山から参加していただき、公式訪問・GTMを無事終了できました。これもAグループ各クラブのご協力の賜物と深く感謝しております。地区内で行われる最も大きな地区大会は5月29日に延期、PETS、地区協議会はオンラインとなりました。また、グループ内の多くのクラブの1~3月の例会が休会となり、1月のクラブ訪問は、Zoomで開催された地区大会企画会議の報告と大会への多数の参加の要請をさせていただきました。5月に開催される地区大会がリアルで行われ、多くの会員の皆様の笑顔に接することができることを楽しみにしております。一年間ありがとうございました。各クラブのますますの発展をお祈り申し上げます。



一年を振り返って 岐阜Bグループガバナー補佐 杉山 昌治(岐阜城RC)

2019-2020年度下半期から新型コロナウイルスが猛威を振るう中、7月のグループ内6クラブ期首訪問の折、「全天候型クラブを学び、実践しよう」のグループテーマを発表してから、早くも一年経とうとしています。

皆様におかれても、リアルな活動が大きく制限される中、クラブ内で知恵を出し合い実行できうる最善のロータリー活動をされてきた一年ではなかったでしょうか。

9月開催のGTM(従来のIM)開催には、初のリモートによる参加形式採用が大きな負担になったことと思いますが、成功裏に終えることができました。その後の中間訪問中止、また期末訪問も一部で中止せざるを得ない状況となり、本当に多くのご迷惑をお掛けした一年となりそうです。

これまでグループの皆様を支えていただいたことに感謝申し上げますと共に、各クラブの発展を念じております。



一年を振り返って 岐阜西濃グループガバナー補佐 岩田 勝美(羽島RC)

かつて「分区代理」と呼ばれていた現在のガバナー補佐(AG)は、DLPによってRIの正式な役職になりました。AG研修会に於いて劔田ガバナーは「ガバナー補佐はガバナーのメッセンジャーとしてではなく、あくまで自身の言葉で卓話をして欲しい」と言われました。以前、地区職業奉仕委員長をしていた事で、ロータリーにとって職業奉仕がいかに大切かを知る私には大変有難いお言葉でした。秋に予定していた初の試み、G・T・Mに於いてもファシリテーターとして各クラブの会長または研修委員長に対し「クラブ内で職業奉仕をどの様に研修しているか」を聞き出す事で、活発な議論がなされる事を期待していました。

グループの慣習に従い、年2回の訪問時の会長幹事懇談会ではどのクラブも気持ちよく迎えて頂き、多くのロータリアンと親しくなれた事もガバナー補佐の役得と、大変有難く思っています。劔田ガバナー同様「不完全燃焼症候群」感は拭えませんが、とても貴重な体験をさせて頂いた一年でした。



一年を振り返って 岐阜東濃グループガバナー補佐 吉村 敏博(中津川RC)

2020年7月東濃グループ第一回の会長幹事会を行い、ガバナー訪問、GTMの開催、ガバナー補佐訪問の日程等について話させていただきました。しかし、折からのコロナ禍で、どの事業も延期あるいは、中止せざるを得ない状況に陥りました。この状況下、グループ内の三クラブにおいて、ガバナー訪問例会が実現しました。各クラブにおかれては、コロナ禍のクラブ運営等について、ガバナーから、直接話を聞け、大変有意義な機会となりました。また、GTMについては、開催はできませんでしたが、各クラブの研修事業の報告、過去の奉仕事業の事例等について、冊子に纏め報告書とさせていただきます。

会員にとって、コロナ禍だからこそ、難しい機会に遭遇し、いろいろな試みをなされ、新しい方向を探るきっかけ、日本の職業奉仕、ロータリーの心をじっくり考える機会になったのではないかと思います。この一年、お世話になった皆様に、改めて厚くお礼申し上げます。



一年をふりかえって 東東北陸道グループガバナー補佐 藤代 昇(郡上長良川RC)

コロナ禍で始まった今期、7月6日に劔田ガバナーにお願いしてグループの会長幹事会を郡上市のレストランで行う事が出来ました。会長幹事も全員が始めてガバナーに会い、今期の方針等を話して頂き、会長等も色々意見を述べさせて頂き、有意義な会合が出来ました。

ガバナーの公式訪問も中止となり、全ての公式事業が中止となり残念でした。初期のAGクラブ訪問は7クラブ全て行えました。中期は行えませんでした。DTMは当クラブがオンラインで行う事になりましたが、初めての事なので上手くやれるのか心配しておりましたが、各クラブの御協力で好評のうちに終える事が出来ました。他は何も出来ない一年でしたが、来期はコロナも終息して各事業が行えることを祈念しています。



一年をふりかえって 濃飛グループガバナー補佐 大森 清雄(下呂RC)

2020-2021年度濃飛グループのガバナー補佐として一年間、劔田ガバナー、中田地区代表幹事をはじめ地区役員の皆様濃飛グループ各会長、幹事の皆様にお世話になりました。ありがとうございました。

今年度は、コロナに始まりコロナに振り回された一年でした。クラブ訪問にてガバナーの方針である日本の伝統である職業奉仕を根幹とする理念に基づく活動について説明をさせて頂きましたが、例会の中止、事業の中止を余儀なくされ各クラブの会長さんは大変苦労されながらクラブ運営をされたことと思います。また、GTMにつきましてはクラブ研修リーダーの皆様をはじめメンバーの皆様には多大なご協力を頂き報告書という形でありましたが事業を終えることが出来ました。

コロナ禍での少ない関りではありましたが、各クラブの歴史やそれぞれの特色を感じさせていただき勉強させていただきましたことに感謝申し上げます。今後オンライン会議等が増え、関係が希薄になるのではないかと心配しておりますが、いろいろな意味で記憶に残る一年でした。グループの会員の皆様ありがとうございました。益々のご発展を祈念します。感謝。



この一年を振り返って

職業奉仕委員会 委員長
原尾 勝 (岐阜北RC)

「職業奉仕を根幹とするロータリーの理念を大切にしたい」という劔田ガバナーの思いを実現すべく各クラブからの卓話要請や職業奉仕研修セミナーを通じてお話する予定で活動して参りました。ところが秋が深まるにつれ、徐々に雲行きが怪しくなりました。寒さと共に11月に入った頃からコロナ感染者が一気に急増し、12月の職業奉仕研修セミナーは、皆様の健康と安全を考慮して中止と致しました。各クラブの例会も相次いで中止となり、多くの卓話要請もなくなりました。当委員会活動もすべてリモートでの実施となり、物足りなさや寂しさを感じます。只、委員の皆様には積極的に参加して戴き、勉強会や多くの意見交換が出来たことが唯一の救いであります。

親睦、絆等、人と人との繋がりを大切にしてきたロータリー。私のグループのガバナー公式訪問もリモートでした。正直、リモートでの限界も感じています。「会いたい人に会えない」「やりたいことがやれない」「当たり前が当たり前でなくなった」今、これからどの様に委員会運営を行うのか試練に立たされています。一方的に情報発信しても限界があります。自己満足で終わるかもしれません。やはり例会に呼んで戴いてお話を、一堂に会してセミナーを開催する、これに勝るものはないと思います。皆様のクラブ例会が予定通り開催され、卓話に呼んで戴ければ幸いです。是非、声を掛けて下さい。

今は、高山での地区大会が無事開催され、浦田ガバナー年度の素晴らしい旅立ちが出来ることを願うのみです。



一年を振り返って

会員増強委員会 委員長
中村 薫 (鈴鹿RC)

コロナ禍の一年でしたが、時の経つのは早く年度末となりました。今年度はやっと例会が開けたぐらいの状態ですスタートしましたが、それでも各クラブの皆様への増強に対する気持ちは、ひしひしと感じました。昨年5月に開催予定の、次期会員増強研修セミナーが中止となったことから、8月に第2地域ロータリーコーディネーター補佐・神野重行様のビデオ講演を各クラブに配布し「これからのロータリー」について講演して頂きました。8月は増強月間でもあり、各クラブから卓話依頼を頂き、中止のクラブもありましたが5クラブに訪問し増強について卓話させて頂きました。その後11月に2クラブからも卓話依頼があり訪問致しました。9月には会員維持を目的として全会員に缶バッジを配布致しました、これは劔田ガバナーの強い思い入れにより推進され、浦田ガバナーエレクトのデザインにより制作されました。

委員会と致しましては毎月増強状況報告書をいち早く作成し、各クラブへ状況をお知らせいたしておりますが、コロナ禍において例会が休会の最中でも増強に邁進して下さるクラブもごございます。また会員の心がロータリーから離れるような状態の中、連絡を取り合い仲間を信じあい、励ましあって、会員維持に努力されているクラブもごございます。

数字的には年度末どこまで持ちこたえられるかは不透明な状況ではありますが、コロナの時代はいつか終息します、今の苦しい状況の中でも一声かけあうことが増強にも、維持にも大きな一歩となることは間違いありません。どうかロータリー、そして仲間との原点を守るため今一度ロータリー活動を考えなおそうではありませんか。

本年度会員増強委員会に多大なご協力を頂き心より感謝申し上げます。次年度も直しくお願い致します、ありがとうございます。



1年をふりかえって

公共イメージ委員会 委員長
土川 東 (岐阜加納RC)

今期は新型コロナウイルス感染緊急事態宣言発令によりクラブ例会、奉仕活動、イベント等が中止となり活動が制限される大変な一年となりました。その中で当委員会は公共イメージと認知度の向上を図る目的で①My Rotary登録を奨励しロータリークラブセントラルの活用を促す。②ホームページを活用し情報発信を推進する。③ロータリーPRグッズ(公共イメージ向上マスク)の制作をし各クラブの奉仕活動、イベント等に活用してもらおう。などを計画し活動してまいりました。

まずMyRotaryへの登録ですが、23.22%にアップしておりますが第3ゾーン(12地区)では依然最下位という状況です。次に2630地区ホームページアクセス解析ですが、30651件で5.5%アップしました。次年度はSNS、You Tubeなどの活用も具体化し進めて頂けたらと思います。また今年度は新たに「公共イメージ向上マスク」の作成をしました。

おかげ様で各クラブのご協力により100セット(10枚×100個)を完売することができクラブのイベント、奉仕活動(献血、ポリオ募金、タイ国第3330地区/3350地区へマスク寄贈)等でご活用頂きその様子を、月信・新聞・ホームページに広報して頂きました。ロータリーの活動を広く地域社会に知って頂くことの大切さをより強く感じる年となりました。

最後になりましたが、この3年間委員長として公共イメージアップに携わることが出来ましたことに感謝すると共に各クラブのメンバーの皆様、委員会のメンバーの多大なご協力とご支援に感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。



ロータリークラブに入会したら 機会の扉が開いた話

多様性推進小委員会 委員長
川原 直美 (熊野RC)

ロータリークラブに入会するということは、RI会長の言われるように、機会を与えてもらうことです。それは、新しい友人を得る機会であったり、奉仕活動をする機会であったり、今まで経験のないことに挑戦する機会であったり会員それぞれの人生を豊かにする機会だと思えます。

私が熊野クラブに入会後、野球同好会に入会(野球したことないにもかかわらず)。全国ロータリー選抜野球大会に出場させてもらい甲子園球場でバッターボックスに立つ機会を与えてもらいました。しかもその年は全国優勝で、人生で初めての日本一を経験できました。その後も毎年、「グレン&千杯 田中作治旗」の試合の為に全国をチームのみんなと遠征する機会を戴き、行ったことのない地方や場所にたくさん連れて行って貰って、当地のロータリアンと交流する機会をたくさん戴きました。この野球で関係のあったロータリアン達に後にフィリピンの子供たちとの野球交流という活動時には多くの野球道具やユニフォームを提供していただきました。海外への野球支援をすることをクラブで決めた時、全く海外のロータリークラブと接点がなかったので、「オフィシャルディレクトリー」を使って海外のクラブを探しました。これは、当該年度の世界中のロータリークラブと直接連絡が取れるというロータリアンにしか利用できない超お宝なものでこれを利用する機会などなかなか経験できません。この中から、「せっかくの機会なので、アジア初のロータリークラブであるマニラクラブにしよう」と決めました。そして英語の達者なメンバーにお願いしてメールでコンタクトを取りました。そして、当時のマニラクラブの奉仕担当が野球をしている子供たちの学校を紹介していただきました。その担当下さった方は、マニラクラブ100周年時の会長でした。結果、子供たちと野球をしたり、野球道具をプレゼントしたり、野球道具の手入れを教えたり、そして野球をするグラウンドの草刈り機をプレゼントしたりして3年計画の交流が終わりました。

多くの人がロータリークラブに入会することによって新たな機会の扉を開くことになります。それはまた、多くの場合自分だけでなく周りの人や多くの助けを必要とする人たちにとっての喜びとなるはずで。そしてこのような機会を、多くの女性や若者にも分け与えることができるのは、皆さん一人一人です。多様性を意識した増強をお願いします。



「一年をふりかえって」

衛星クラブ推進小委員会 委員長
大谷 浄治 (四日市RC)

衛星クラブ推進小委員会は、2020-2021年度に初めて組織化され、コロナ禍のもと活動を始めました。昨年7月31日に多様性推進小委員会の皆さんと行ったオンライン会議による合同委員会がスタートでした。2021-2022年度も桑月心カウンセラー(高山RC)下畑了三委員(高山RC)と共に衛星クラブ推進小委員会を担当させていただきます。

衛星クラブは2013年RI規定審議会で採択された新しいクラブの形です。衛星クラブは、ロータリークラブを結成する新しい方法です。衛星クラブが本格的なロータリークラブとなる準備が整った場合、ロータリークラブとなるための申請を行うことができます。

ロータリーが過去に輩出してきた国際親善奨学生および各青少年プログラムを経験されたOB・OGの方々などロータリーの活動に理解のある皆さんに入学して頂くことができます。

東京北ロータリークラブが東京北Exchangeロータリー衛星クラブをスポンサーし、2020年11月3日付でRI理事会より認可を受けられました。ロータリーで初めて世界で一番目のROTEX(青少年交換プログラム参加経験者)によるロータリー衛星クラブとなります。

当地区でも柔軟性のある試験的クラブの創立により会員増強に寄与できればと思います。



一年を振り返って

奉仕プロジェクト部門 国際奉仕委員会 委員長
勝川 生年 (美濃加茂RC)

世界の国々が、国境を閉ざして1年が過ぎました、国際奉仕委員会にとって、手足を拘束された様な、厳しい環境の中での活動期間でした。

活動の制約は、国外だけではなく、国内でも多く影響を受け、頂いた卓話依頼も、突然の「緊急事態宣言」の発令などにより、クラブへの訪問をお断りしなければならない残念な思いをいたしました、幸い「ロータリーのデジタル化」推進の恩恵も有り作成した資料をメールに添付し依頼先へ情報を伝える事が出来る事に救われたと思います。

そんな厳しい環境の中ではありませんでしたが、WCS補助金を活用した事業は例年と変わらず申請を頂き支援を必要としている国や地域の人々に貢献が出来た事に国際奉仕委員会の役割を感じる事が出来ました、一例をあげますと、「公共イメージ向上」に向け2630地区で作成された「サージカルマスク」輸出入が規制されている「タイ国」へ関税の問題を乗り越え16,000枚寄贈され、多くの感謝を受ける事が出来ました。

グローバル補助金を活用したプロジェクトでは、2度目となります継続事業「識字率向上」が昨年12月に引き渡しを完了いたしました、そして新たに「母子の健康」をテーマにしたプロジェクトが始まりました、この事業は現地からの強い要望から生れ今後も継続が必要とされており、既に準備に入っております。海外での社会奉仕活動は相手国を含め、申請等々で面倒な事も有りますが、国際奉仕委員会がお手伝いをさせて頂きます、事業が完了すると相手国より多くの感謝が届きます、その喜びを分かち合ひましょう。

これからも、委員会を御理解と活用して頂く為に、卓話、SNS等の活用により皆様のお役にたてる様、知識の向上に努めて参ります。



一年を振り返って

奉仕プロジェクト部門委員会 委員長
篠原 一行 (多治見リバーサイドRC)

コロナ禍の1年間、委員会活動も大きく制限を受けました。年度初めのプロジェクト合同委員会と社会奉仕委員会・国際奉仕委員会は実施しましたが、そのあとは殆どメールと電話での打ち合わせになりました。4月の合同委員会はZoomで実施、委員会メンバーとの顔合わせも懐かしさを感じました。

社会奉仕および国際奉仕と共に「奉仕プロジェクト部門」を、どのように表現・活動して良いのかと戸惑いもありました。「社会奉仕委員会そして国際奉仕委員会を支援する役目」を第一に、各委員会が各クラブの地域活動や海外支援活動をしっかりとフォローすると共に、各クラブへの支援を勧めてまいりました。

「ロータリー活動の喜びや誇りの原点は奉仕に有り」と常に心にもって、各クラブへの卓話やPETS、そして地区研修協議会・分科会(DVD)でお話ししました。コロナ禍で例会の休会も多かったことで、卓話依頼は例年に比べると少し少なかったようです。各クラブが奉仕活動に対して、多くの危機感・違和感を持っているようにもみえました。唱え継がれているロータリーの哲学と倫理原則を基に、奉仕の理想・理念を今一度照査してみようと思います。

ロータリーの奉仕プロジェクトは、何処にでも誰にでも、垣根なく奉仕のために駆け付けることが望ましい姿でしょう。奉仕プロジェクト部門委員会は、常に地区内各クラブへの支援活動を、積極的に勧める部門委員会でありたいと考えます。



この一年を振り返って

奉仕プロジェクト部門 社会奉仕委員会 委員長
石田 公司 (美濃加茂RC)

この一年は世界中が新型コロナに翻弄されることになりました。貴ロータリークラブの活動も例会の中止や、親睦活動の停止をされたのではないのでしょうか。

奉仕活動も当初予定の実行が出来ず変更を余儀なくされたクラブが多くありました。

例えば鳥羽ロータリークラブの地区補助金事業では鳥羽高校と共に国際感覚豊かな地域に貢献できる人材の育成のための動画を作成しました。これを多くの市民に視聴してもらう計画でしたが公開は中止となりました。そこで、思案の末、補助金の用途を変更し新型コロナで家計に深刻な影響が出ている方々を支援するため、鳥羽地域・子どもネットワークと共催でフードバンクを開催しました。「さくら(フード)パントリー」と名付けた催しでは食料を必要とする一人暮らしの高齢者・ひとり親家族・一般市民・子ども等に、お米や食料品・お菓子を渡し喜んで頂いたそうです。他のクラブでも同様に皆さんに求められる奉仕を探し見つけ工夫し努力し活動をしています。地区ホームページの「奉仕プロジェクト」に掲載していますので是非一度ご覧ください。

地区社会奉仕委員会も今年は思うように活動できず通常の委員会の開催は1回に。また、重点事項としていた卓話訪問も1回にとどまりました。しかし、これに懲りず次年度も各クラブの社会奉仕活動を支援していきます。

一年間ありがとうございました。



一年を振り返って

青少年奉仕委員会 委員長
藤下 和也 (恵那RC)

コロナ禍によりこの1年間は生活様式や社会の在り方を変えざるを得ない大きな変革を迫られた一年でもありました。

社会ではリモートワークが一般化され子供達は教育現場での学習方法も大きく変化されようとしています。学校教育に於いてのリモート化・タブレットなどを用いたIT化など教育現場でのアナログとデジタルの融合をどのようにしていくかなど課題は多く、その対応とスピードが追いついていない現状が見られます。子供の教育に於いては、今までにも何度か話題にさせて戴きましたが、今のZ世代の子供達はもともとデジタル化がとて進んでいる環境で生まれ育った世代ですからデジタルは簡単に受け入れることが出来ます。しかし今もこれから子供達には「人と人が触れ合い・顔と顔を突き合わせてコミュニケーションがとれるアナログでのコミュニケーションが出来る能力」が必要です。それが出来ない子供たちが増えて続け、若くして鬱病になったり心身症になったり、人の助けが必要なのに人に頼ることが出来ない子供、いわゆる集団生活が出来ない子供達が増えています。コロナ禍はまだ進行中ですが周りにいる私たち大人が子供達に出来る事は、子供達が健全な大人になるために「相手の心を読み、自分の気持ちを伝えられるアナログでのコミュニケーション能力を高める」ことです。

積極的に子供達と関わり、共に感動し、共に喜ぶ事で多様性に必要な人間力を高めなければなりません。



一年をふりかえって

青少年交換委員会 委員長
平田 芳久 (四日市RC)

当委員会の活動はロータリー年度の始まりである7月から派遣留学生を送り出し、海外から留学生を受け入れ、慌ただしく新年度を迎えるのが例年の事ですが、本年度はロータリーの交換プログラムが中止となり、参加を予定していた世界中の学生が留学を断念する事を余儀なくされ、また留学中の学生は帰国を迫られるなど、世界中の交換プログラムに参加する学生、及びロータリアンがコロナウイルス感染症の影響で難しい判断を迫られる年度となりました。

そのような状況下第2630地区では、2020年1月にオーストラリアとニュージーランドから来日した2名の学生が日本に残る決心をして1年間の留学を続けていましたので、安全を第一に彼女たちが参加するオリエンテーション・研修旅行を実施いたしました。コロナ禍で生活の行動が制限される中例年通り無事に委員会行事が開催できました事に、受け入れを継続していただきましたホストクラブ、ホストファミリー、学校関係者等の皆様に改めて感謝を申し上げます。

当委員会では2021年に入り2022年度の派遣留学候補学生募集のポスターを、60校あまりの岐阜・三重県下の高等学校に配布し掲示のお願いをいたしました。コロナ禍が収束するにはまだまだ時間がかかりそうですが、魅力のあるロータリーの交換プログラムに世界中の学生が参加し、異なる文化、歴史に触れ多くの人たちと交流し、国際交流の大切さを体験できる本来の交換プログラムに戻る事を願っています。



一年を振り返って

ローターアクト委員会 委員長
青山 正生 (本巣RC)

今年度、委員長という大役を拝命し早くも1年が経とうとしていますが、新型コロナウイルス感染症の影響で通常の活動ができない状況が続いております。委員長として委員の皆様との協力を得て一年間務めることができ、良い経験をさせて頂きました。皆様方には御支援と御指導を賜り誠に有難うございました。

ローターアクトクラブが初めてアメリカに発足して、今年3月で53周年を迎えました。

現在、当地区にはローターアクトクラブが6クラブあり会員数は約60名が登録されており、歴史のあるクラブほど会員数が減少状態です。近年ではインターアクト年次大会等の行事に参加し高校卒業後もロータリーとの繋がりが切れない様にローターアクトのPRをさせていただいております。

ローターアクトクラブは、会員が中心となり企画から運営までボランティア活動を通じ地域社会に様々な貢献をしながら自分自身が学び成長していく団体です。ロータリアン皆様の会社の若手社員教育にも適応したローターアクトクラブです。是非、入会のご紹介を宜しく願い申し上げます。そして提唱クラブ以外のロータリアンの皆様もローターアクトクラブ活動に少しでも御参加いただき御理解と御協力の程、宜しく願い申し上げます。

最後になりましたが、一年間有難う御座いました。



「一年を振り返って」

インターアクト委員会 委員長
布目 美智男 (下呂RC)

今年度の委員会を振り返って昨年来より発生した、COVID19新型コロナウイルスが世界中に猛威を振るい当地区に限らず、ほとんどのロータリーで活動の自粛や活動の休止、予定されていた行事の中止が余儀なくされています。

当地区インターアクトクラブ委員会においても、残念ながら韓国派遣の中止を決定し韓国3600地区のインターアクト委員会のキム委員長に連絡をしました。

各高校のインターアクトクラブにおかれましても昨年同様、部活動の自粛が続いています。今年も新入部員の獲得もできないまま、これからの活動においても計画や予定を立てることが大変厳しい状態にあると思います。

2630地区内のインターアクトクラブにおきましても、岐阜県の教育委員会の方から部活動の自粛や部の数を減らすような方針が出るなどの影響から、廃部された学校や、スポンサークラブの事情により国際ロータリーへの登録ができなくなったインターアクトクラブが出てくるなど、インターアクトクラブの存続にも悪影響が出てきました。活動によってつながっていた学校やインターアクターとの連絡や連携が希薄になっていくことを心配しています。



一年をふりかえって

ロータリー財団部門委員会 委員長
平井 義之 (松阪RC)

おかげさまで委員長最終年度(3年目)もあと1カ月となりました。在任期間中に賜りましたご厚情に心からお礼申し上げます。

本年はコロナ禍のために従来の委員会活動が実践できず、動画「ロータリー財団セミナー」・「ロータリー財団ガイド」や冊子「ロータリー補助金ガイドブック」等、リモートのご案内になり心苦しく思っています。しかしながら、懸念しておりました各クラブからの地区補助金及びグローバル補助金の事業申請は24件、奨学生の応募者6名とはほぼ例年通りの件数があり少し安堵しているところです。

第2630地区内クラブの旺盛な奉仕意欲に委員会メンバーも大いに勇気づけられました。その原資となりますご寄付につきましては昨年実績ですが、全国の年次基金目標150ドル/一人に対して143ドル、ポリオプラス寄付目標30ドル/一人に対して29ドルと、あと一步に迫っています。地区内ロータリアンの積極的なご寄付に心から感謝申し上げます。当地区にはメジャードナー(※1)以上の方が45名、ポール・ハリス・ソサエティ(※2)が26名、「遺贈友の会」(※3)会員が1名いらっしゃることも敬意をこめてご報告いたします。「世界でよいことをしよう」というスローガンのもと賜りました、たくさんのご支援、ご協力に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

(※1)メジャードナー…累積寄付額合計1万ドル以上に達した個人または夫妻の認証
(※2)ポール・ハリス・ソサエティ…毎年1千ドル以上継続して寄付をされる方の認証
(※3)遺贈友の会…遺産計画で1万ドル以上の寄付を誓約された個人または夫妻の認証



コロナとポリオ

ロータリー財団部門 ポリオ・プラス小委員会 委員長
河地 勝彦 (多治見RC)

新型コロナウイルス感染拡大によるパンデミック(世界的大流行)は私たちの生活に多大なる悪い影響を与えています。

日本国民が熱望し、日本経済的にも好影響を与えらると思われた東京オリンピック・パラリンピック大会も国民の半数以上が開催に反対または延期をのぞむというアンケート結果が出ているのが現状で、繰り返される緊急事態宣言の発令など残念ながら未だ出口が見えていません。

そんな中、一筋の光がワクチンの世界的な普及といわれワクチンの2回接種完了した国民の割合の多い国はそれに比例して感染者数が激減していると言われコロナワクチンの世界的普及こそがパンデミック収束への道筋です。この状況は一昔前のポリオウイルス感染拡大に近いものがあり、コロナもポリオもワクチンの世界的な普及こそがこれらのウイルスに対抗する最も効果的な方法であることは言うまでもありません。長年にわたる私たちの戦いでポリオワクチンの普及は全世界の86%に及んでいます。その結果残り2か国を残し自然株は根絶するところまで来ています。

コロナ禍でこの撲滅に向けた活動に悪い影響が及んでいるのは明白です。しかしこの流れをコロナ禍だからと言って緩めることは出来ません。なぜなら自然株が根絶していない以上、緊急事態宣言を解除した後の日本のように再度感染拡大が始まる可能性があるからです。それを防ぐ方法は全世界でポリオウイルスを根絶させることです。

その為にはコロナだからと言い訳することなく出来ることを出来る範囲で一人一人が行っていく事が重要です。今できることのひとつはポリオプラスに毎年5,000万ドルの資金を調達する為に一人一人が貢献していくことであると思います。皆様のご協力宜しくお願い致します。



一年を振り返って

ロータリー財団部門 資金推進小委員会 委員長
ロータリー平和フェローシップ小委員会 委員長
本弘 路可 (津RC)

ロータリー財団資金推進小委員会は、ロータリー財団への理解と寄付の増進を進めていく委員会です。

コロナ禍により、毎年2回開催していたR財団研修セミナーを中止し、動画のYouTube配信と冊子の地区財団ガイドブックのご視聴とアンケートを提出していただくことでセミナー受講終了といたしました。また、例会休会等活動停止に対応するため、卓話用ダイジェスト版動画を配信いたしました。地区研修・協議会におきましてはセミナー用YouTube動画等を再編集し、クラブの新委員長様用に特化したDVDとガイドブックを作成し、これらをご利用いただく事で理解促進をまいりました。

ロータリー平和フェローシップは、最も新しい国際ロータリーとともに世界平和を構築できる即戦力の人材育成を目的とした8万ドルまで支給される奨学金プログラムです。

当地区より奨学生が推薦できておりませんので引き続き優れた人材がみえれば地区への情報提供をお願いします。

今年度は、対面での活動が制約された中であり、イベントの急な変更に対応するため、地区財団部門内の正・副委員長と一部の委員で動画等の作成が活動の中心となり、委員会全体としての十分な意見交換や活動ができなかった事が最も反省すべき点です。

両委員会活動共に至らぬ点が多々あったかと思いますが、今後もロータリー財団への寄付は「未来への投資」とご理解いただき、さらなるロータリー財団活動へのご支援をよろしくお願い致します。



一年を振り返って

ロータリー財団部門 資金管理小委員会 委員長
加瀬 久照 (津RC)

各クラブまた関係各位皆様のご指導ご協力を頂き、この1年間資金管理小委員会委員長を全うできましたこと、心から御礼申し上げます。

コロナ渦の中、委員会活動の制限もあり、補助金セミナー、出張卓話を満足な形で開催、実施出来ないにも関わらず「授受と受諾の条件」へのご理解、「MOU」の覚書への御署名また、財団への御寄付、各クラブの皆様には多くのご協力いただきましたこと感謝申し上げます。

ただ、年度始まりの委員長就任ご挨拶に計画といたしまして「ロータリークラブカード」のご紹介、ご推進を掲げておりましたがこの活動も満足な形を残すことが出来ませんでした。改めて、この場をお借りいたしまして、ポリオ根絶に貢献いただけます「ロータリークラブカード」をよろしくお祈り申し上げます。

皆様には、大変お世話になりました。重ねまして御礼申し上げます。1年間有難うございました。

引き続き、何卒ロータリー財団また資金管理小委員会へのご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



「一年をふりかえって」

ロータリー財団部門 補助金小委員会 委員長
堀部 哲夫（関RC）

本年度はコロナ禍に有ったために、ロータリー財団部門が予定していましたセミナーは開催できませんでした。そのために、補助金申請が減少するのではないかと心配していましたが、地区補助金は奉仕プログラム 21 件、奨学金 1 件の申請が有り例年通りとなりました。また、グローバル補助金事業（奨学生を含む）の申請も例年以上に頂きました。

このことから、ロータリー財団部門の補助金がかかり地区内に浸透してきていると実感することができました。そこで、これからの補助金小委員会の役割としては、より質の高い補助金事業を継続的に実施していただけるようにクラブの支援をすることではないかと思っています。

また、本年度はコロナ禍でイベント等人が集まる事業ができませんでした。やむを得ずイベントを取り止めコロナ対策事業に変更されたクラブも多数ありました。本来、やりたかった事業ができなかったクラブに、コロナウイルスが収束したら、再度、本来予定していた事業の補助金申請をしていただけるようご指導していきたいと考えています。

奨学金事業においては、多くの優秀な学生から申請を頂きました。コロナ禍のせいか、留学先のパートナークラブがなかなか見つからず、地区内のホストクラブにはご心配をおかけすることもありましたが、本年は無事申請を完了しました。これからも、各クラブと一緒に優秀な若者を奨学生として支援できるよう努めていきたいと思っています。

今後も、ロータリー財団部門委員会に対しましてご理解ご協力をお願い申し上げます。



コロナ禍の中一年を振り返って

米山記念奨学委員会 委員長
伊藤 晃宏（鈴鹿シティRC）

今年度、会員の皆様から米山記念奨学会へご寄付を頂き、当期 19 名の米山奨学生を世話クラブに配属させて頂きました。地区事業としては、下記のとおりコロナ禍の中、コロナ対策・事業縮小を行い研修・交流会などを行いました。

- ・ 9 月に奨学生卓話研修会
- ・ 10 月～ 11 月に各クラブ卓話訪問
- ・ 11 月に次期世話クラブ・カウンセラー・米山奨学生交流会
- ・ 1 月に次期米山奨学生 面接選考会
- ・ 3 月に米山奨学生修了式
- ・ 4 月に次年度カウンセラー・奨学生オリエンテーション・研修会
- ・ 6 月に次年度個別学校説明会

また、委員会としましては、奨学生と引き続き交流・連絡を取り、学友会（修了した奨学生の会）の組織・事務運営をしっかりと行いたいと思います。

また、米山奨学生期間修了者はほとんど日本で就職をしております。しかし、当地区ではなく他地域に就職をしております。米山奨学生はとても優秀です。当地区の企業や会社に就職できる機会を与えて頂くように思っております。

また、今期釧田ガバナーのご指導のもと米山奨学事業が遂行できたことに感謝申し上げますと共に各クラブメンバーの皆様・委員会メンバーの皆様の温かいご支援に感謝と御礼を申し上げます。

活動事業報告

可見RC ドクターコートの寄贈

コロナ禍において、大変ご苦労なさっている医療従事者の方々に対し、コロナワクチン接種の際に使用する『ドクターコート 73 着』を寄贈させて頂きました（先生ご着用の白衣が現物です）。可見医師会の熊谷会長からは、「不安や緊張が続く医療現場にとって、温かい支援や声援が何よりの励み」とお礼の言葉を頂きました。

公共イメージ・会員組織委員会 副委員長 新田 喜信



上野東ロータリークラブ「創立40周年記念例会」開催

上野東ロータリークラブは、4月17日(土)、三重県伊賀市にある「ヒルホテル サンピア伊賀」において劔田ガバナー、福本ガバナー補佐、中勢伊賀グループの各クラブの会長様をお迎えし、創立40周年記念例会を開催した。

コロナ禍でもあり感染防止対策を徹底して、ご来賓、会員、ご家族等の人数も縮小して行われた。

開催に当たり、最初に物故会員の黙祷の後、鈴木孝治会長の挨拶、皆出席者表彰、チャーター会員への記念品贈呈、上野東ロータリークラブ奨学生、学友会への奨学金、祝金の贈呈、松本正博総括委員長より音楽指導や公園のあずま屋補修等の記念事業報告がなされた。

続いて伊賀市岡本栄市長のご祝辞のあと国際ロータリー 2630 地区劔田廣喜ガバナーのご祝辞、ご挨拶があり、日本のロータリーの良さを残した運営の重要性について話がなされた。

第2部は、新日本フィルハーモニー交響楽団のビオラ奏者、吉鶴洋一氏ご夫妻によるミニコンサートで始まり、中井茂平実行委員長の未来に向けた挨拶、奨学会学友会を代表してチグアラ・ケンジ君の涙を誘うお礼の言葉、田山パストガバナーによる乾杯があった。

本来ならば続いて食事会の予定であったが、コロナの感染防止の為、食事をお弁当の持ち帰りに切り替え、この後すぐに「手に手つないで」の演奏が行われた。着席のまま演奏を聴く中、一同の突然の手拍子に皆の心が繋がって開場は盛り上がった。

最後に、上村良一会長エレクトからお礼の言葉があり記念例会は無事終了した。



国際ロータリー 第2630地区 出席報告

2021年4月分

グループ	クラブ	例会数	会員数					
			前期末	うち女性	月末	うち女性	増	減
桑名	桑名	1	38	0	37	0	0	1
	桑名西	3	33	0	33	0	2	2
	桑名中央	2	30	1	28	1	1	3
	桑名北	4	29	8	31	8	3	1
	グループ計(4)		130	9	129	9	6	7
四日市	四日市	3	90	1	90	3	8	8
	四日市北	3	21	5	21	5	3	3
	四日市西	2	68	4	74	4	6	0
	四日市南	2	39	4	36	4	1	4
	四日市東	3	37	0	35	0	0	2
	グループ計(5)		255	14	256	16	18	17
鈴鹿・亀山	鈴鹿	4	68	10	69	10	2	1
	鈴鹿西	2	36	7	36	7	2	2
	鈴鹿ベイ	3	13	0	12	0	0	1
	亀山	4	15	0	15	0	0	0
	鈴鹿シティ	4	64	3	65	3	4	3
グループ計(5)		196	20	197	20	8	7	
中勢・伊賀	津	4	64	0	63	0	3	4
	上野	4	37	2	37	2	0	0
	名張	2	35	1	34	1	0	1
	津南	4	46	2	41	2	1	6
	津北	4	48	3	49	4	3	2
	上野東	4	37	2	35	2	0	2
	久居	3	27	1	26	1	1	2
	名張中央	3	21	2	20	2	0	1
	グループ計(8)		315	13	305	14	8	18
松阪・東紀州	松阪	1	74	0	75	0	3	2
	松阪東	4	63	10	65	12	5	3
	熊野	3	32	5	32	5	0	0
	尾鷲	4	11	2	11	2	1	1
	松阪山桜	3	35	3	39	3	4	0
	グループ計(5)		215	20	222	22	13	6
伊勢・鳥羽・志摩	伊勢	4	56	0	57	0	1	0
	鳥羽	4	29	3	30	3	1	0
	伊勢南	4	44	4	46	4	2	0
	志摩	4	49	11	47	13	2	4
	伊勢中央	4	48	0	51	0	3	0
	伊勢度会	3	15	4	15	4	0	0
グループ計(6)		241	22	246	24	9	4	
三重県合計(33)		1,352	98	1,355	105	62	59	

■2020年4月(前年度)出席報告

	期首	月末	うち女性	増減
三重県合計(33)	1,405	1,409	102	4
岐阜県合計(42)	1,784	1,821	79	37
地区合計(75)	3,189	3,230	181	41

(注)グループ、県、地区の出席率は全てクラブ数で計算した。

グループ	クラブ	例会数	会員数					
			前期末	うち女性	月末	うち女性	増	減
岐阜A	岐阜	4	74	0	79	2	14	9
	岐阜西	3	53	0	49	0	0	4
	岐阜長良川	4	47	0	45	0	2	4
	岐阜北	3	37	2	38	2	1	0
	岐阜中	3	30	1	29	1	0	1
	グループ計(5)		241	3	240	5	17	18
岐阜B	岐阜南	3	97	12	90	10	2	9
	岐阜東	3	49	2	52	2	4	1
	岐阜東南	4	42	0	40	0	1	3
	岐阜加納	4	76	3	78	3	5	3
	岐阜エトス	3	22	2	22	2	0	0
	岐阜城	2	19	1	19	1	0	0
グループ計(6)		305	20	301	18	12	16	
岐阜西濃	大垣	4	86	2	90	3	6	2
	大垣西	4	73	0	73	0	1	1
	本巣	3	27	0	30	0	4	1
	羽島	4	30	4	28	2	0	2
	不破	3	27	0	29	0	2	0
	大垣中	3	51	0	69	4	18	0
	大垣センチュリー	3	57	3	56	3	0	1
	岐阜淡墨	4	16	1	16	1	0	0
	岐阜サンリバー	4	16	4	16	3	0	0
グループ計(9)		383	14	407	16	31	7	
岐阜東濃	多治見	3	48	4	51	4	7	4
	中津川	4	70	2	72	2	5	3
	瑞浪	4	56	1	57	1	4	3
	恵那	2	47	1	47	2	4	4
	土岐	3	40	1	37	1	0	3
	多治見西	4	30	4	29	3	1	2
	中津川センター	3	53	1	54	1	2	1
	多治見リバーサイド	4	39	1	40	1	2	1
グループ計(8)		383	15	387	15	25	21	
東海北陸道	美濃	3	16	0	17	0	1	0
	各務原	2	24	1	24	1	0	0
	関	2	48	2	48	2	3	3
	郡上八幡	4	36	0	38	0	4	2
	関中央	2	33	0	31	0	0	2
	郡上長良川	4	32	5	32	5	2	2
	各務原かかみの	2	4	0	2	0	0	2
グループ計(7)		193	8	192	8	10	11	
濃飛	高山	3	38	0	41	0	5	2
	下呂	3	26	0	27	0	1	0
	高山西	4	36	2	36	2	2	2
	美濃加茂	4	37	8	35	5	1	3
	可児	3	37	1	36	1	1	2
	高山中央	4	58	5	57	4	1	2
グループ計(6)		232	16	232	12	11	11	
岐阜県合計(41)		1,737	76	1,759	74	106	84	
地区合計(74)		3,089	174	3,114	179	168	143	

会員動静報告 (敬称略)

2021年4月分

受章		入会会員				
 杉山一夫 藍綬褒章	 仲谷政美 旭日単光章	 菱川弘二 2021.4.7入会 自動車製造業	 大西安樹 2021.4.12入会 菓子製造	 竹上亀代司 2021.4.14入会 総合建設業	 三宅 徹 2021.4.14入会 自動車販売業	 荒木美香 2021.4.5入会 エステティックサロン
 喜多賢友 2021.4.1入会 建築設備工事	 杉浦澄子 2021.4.13入会 生命保険	 山田昌幸 2021.4.3入会 土地家屋調査士	 足立明隆 2021.4.1入会 病院事務	 児玉政重 2021.4.1入会 機械製造	 上月智也 2021.4.15入会 神職	 藤本文人 2021.4.22入会 商業銀行
 石橋信一 2021.4.6入会 飲食業	 霜野賢一 2021.4.8入会 生命保険	 杉山 賢 2021.4.7入会 保育園				

逝去会員 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

桑名中央RC



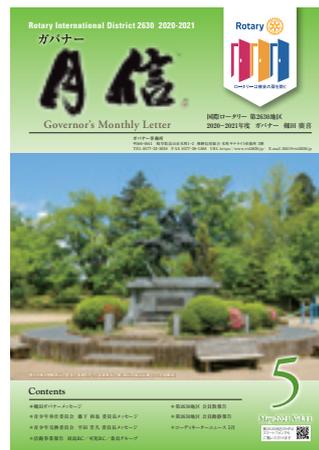
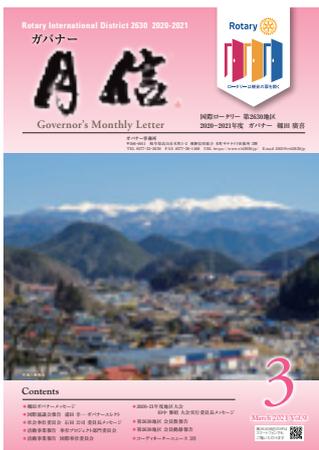
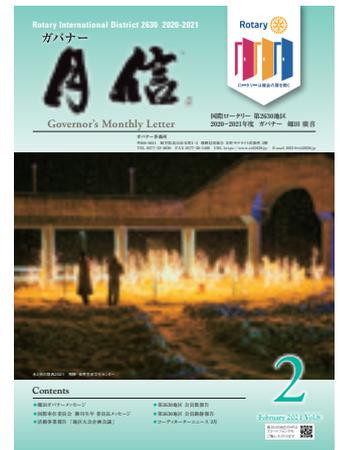
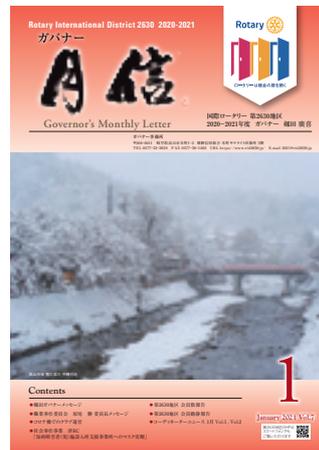
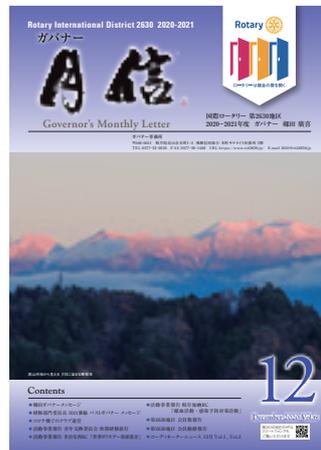
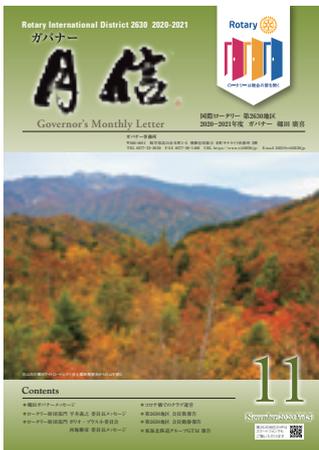
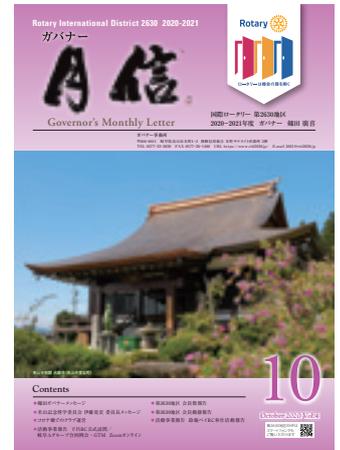
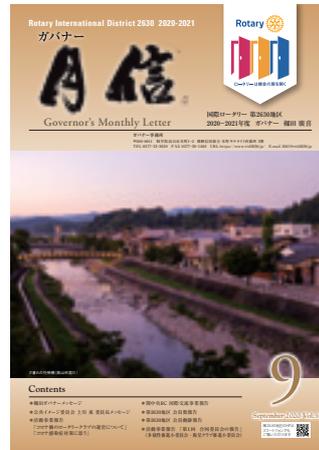
水谷常三郎
 1993.7.2入会
 2021.4.22逝去
 米山功労者マルチプル
 ボールハリスフェロー

ガバナー月信表紙説明

HC85系

「HC」はエンジンで発電した電力と蓄電池の電力とを組み合わせ、モーターを回して走行する「Hybrid Car (ハイブリッド方式の車両)」であることを表しており、ハイブリッド方式の鉄道車両としては国内初の最高速度120km/hの営業運転を目指しています。現行のワイドビューひだ、ワイドビュー南紀で使用されているキハ85系の置き換え車両として開発されました。

ガバナー月信 一年を振り返って(総表紙絵)



2020-2021年度 地区事務所・ガバナー事務所・地区大会事務局 案内

地区事務所	〒500-8212 岐阜県岐阜市日野南3丁目5-16 TEL 058-248-9724 FAX 058-248-9725 E-mail branch@rid2630.org	執務時間 9:30-17:30 (土・日・祝日 休務)
ガバナー事務所	〒506-0011 岐阜県高山市本町1丁目2 飛騨信用組合本町サテライト出張所 3F FAX 0577-36-1488(共通)	執務時間 10:00-16:00 (土・日・祝日 休務)
地区大会事務局	(ガバナー事務所) TEL 0577-32-2630 E-mail 2021@rid2630.jp (地区大会事務局) TEL 0577-32-1166 E-mail 2021taikai@rid2630.jp	